

近年、令和元年東日本台風や令和2年7月豪雨等、全国各地で水災害が激甚化・頻発化しており、降雨量の増大等に対応するため、国や自治体はハード整備の加速化・充実や治水計画の見直しを行っています。加えて、上流・下流や本川・支川の流域全体を俯瞰し、国と自治体、企業、住民等、あらゆる関係者が協働で取り組む「流域治水」の実効性を高める法的枠組み「流域治水関連法案」が令和3年11月に施行されました。

本市では、土砂災害防止法に基づく「土砂災害ハザードマップ」を令和3年3月に、水防法に基づく「洪水ハザードマップ」を令和4年4月に改訂し、住民の皆さまに配布するとともにウェブサイト等で周知を行っています。また、今後の地震災害に備えるため「液状化ハザードマップ」を令和3年3月に作成し、ウェブサイト等で周知を行っています。

市民の皆さまの各種ハザードマップに対する認知度を把握し、今後の取組みに向けて参考とさせていただくため実施したアンケート結果をお知らせいたします。

(河川課)

調査概要

- 調査期間 令和5年7月6日(木)～7月15日(土) (10日間)
- 回答方法 専用ウェブサイトから回答を送信する。
- モニター数 398名 (男性 172名 女性 226名)
- 回答者数 362名 (男性 159名 女性 203名)
- 回答率 91.0%

【分析】

《回答者内訳 (人)》

年代	10代～20代	30代	40代	50代	60代	70代	80代以上	合計
男性	6	7	35	41	24	32	14	159
女性	10	38	64	50	34	7	0	203
合計	16	45	99	91	58	39	14	362

《自分自身の避難について》

- ・自分自身の避難場所について全体の78.5%が「知っている」と回答し、21.5%が「知らない」と回答。(問1)
- ・自分自身の避難ルートについて全体の71.5%が「決めている」もしくは「ある程度決めており、災害時の状況により決定する」と回答し、28.5%が「決めていない」と回答。(問2)

《洪水ハザードマップについて》

- ・郡山市洪水ハザードマップ(以下、洪水ハザードマップ)について93.1%が「知っている」と回答し、6.9%が「知らない」と回答。(問3)
- ・洪水ハザードマップにより自宅や学校、職場等の水害リスクについて全体の68.2%が事前に「確認している」と回答し、31.8%は「確認していない」と回答。(問7)

《土砂災害ハザードマップについて》

- ・郡山市土砂災害ハザードマップ(以下、土砂災害ハザードマップ)について全体の58.8%が「知っている」と回答し、41.2%が「知らない」と回答。(問8)
- ・土砂災害ハザードマップにより自宅や学校、職場等の水害リスクについて全体の61.3%が事前に「確認している」と回答し、38.7%が「確認していない」と回答。(問11)

《液状化ハザードマップについて》

- ・郡山市液状化ハザードマップについて全体の26.5%が「知っている」と回答し、73.5%が「知らない」と回答。(問12)

《その他について》

・各種ハザードマップの今後の活用について、全体の22.1%が「既に活用している」、70.7%が「活用を考えている」、7.2%が「活用を考えていない」と回答。（問23）

【考察】

・自分自身の避難場所や避難ルートについて約7割が事前に決めており、災害時における避難への意識が高い。

・新たな避難場所を追加した際は、避難場所の選択肢として認知してもらえよう追加の都度周知を強化する必要がある。

・土砂災害ハザードマップ及び液状化ハザードマップの認知度は、洪水ハザードマップよりも低いので、引続き周知・啓発をしていく必要がある。

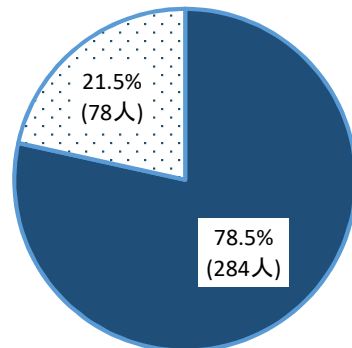
・各種ハザードマップの今後の活用について、大多数の方が活用する考えでいる一方で、自宅の周りは安全などの理由から、活用を考えていないという意見もあった。必ずしも、自宅で被災するとは限らないので、引続きハザードマップの啓発を行っていく必要がある。

※ 構成比は、端数を四捨五入しているため、合計が100.0%にならない場合があります。

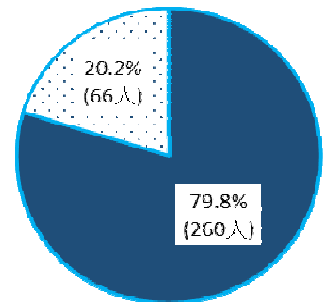
第1章 自分自身の避難について

問1 災害の種類（地震、水害など）に応じた自身の避難場所をご存知ですか？ （1つ選択）

（回答者：362人）

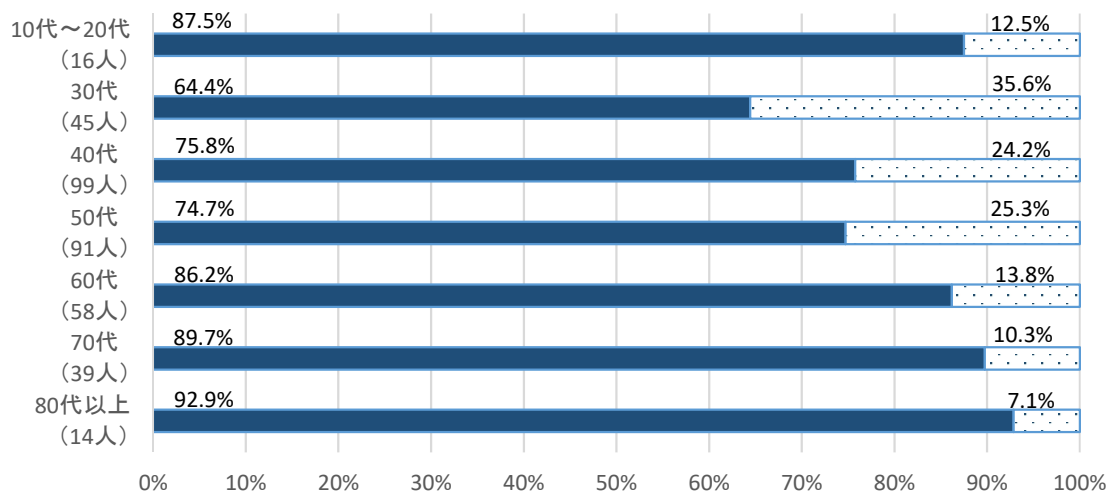


2022年度の調査結果



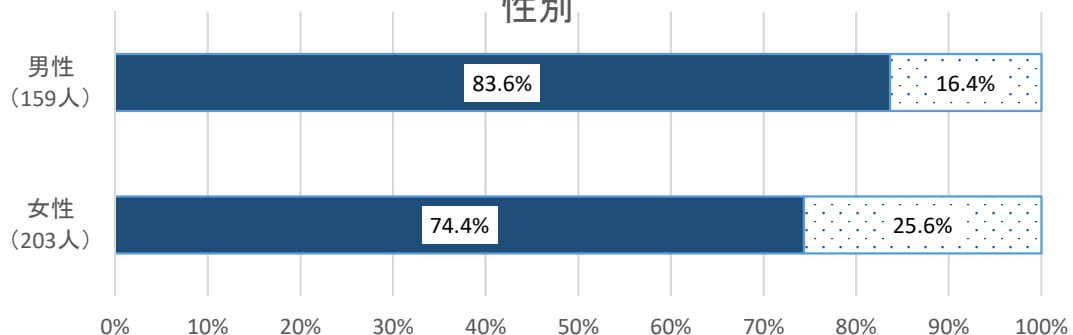
■ 知っている □ 知らない

年代別



■ 知っている □ 知らない

性別

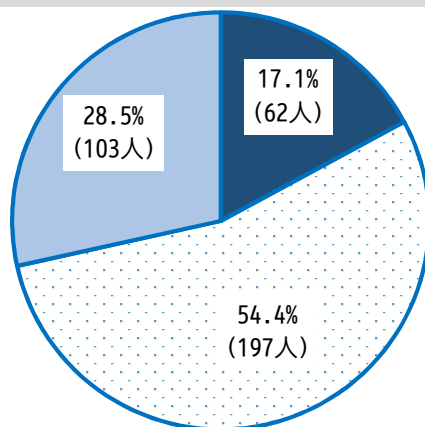


■ 知っている □ 知らない

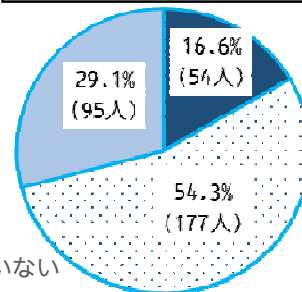
災害の種類（地震、水害など）に応じた自分自身の避難場所について、全体の78.5%が「知っている」と回答している。また、年代別においては、10代～20代、60代以上は8割以上、30代から50代では6割以上の方が「知っている」と回答している。年代に関係なく多くの方が、自分自身の避難場所について認識している。

問2 災害の種類（地震、水害など）に応じた自身の避難ルートを決めてありますか？
（1つ選択）

（回答者：362人）

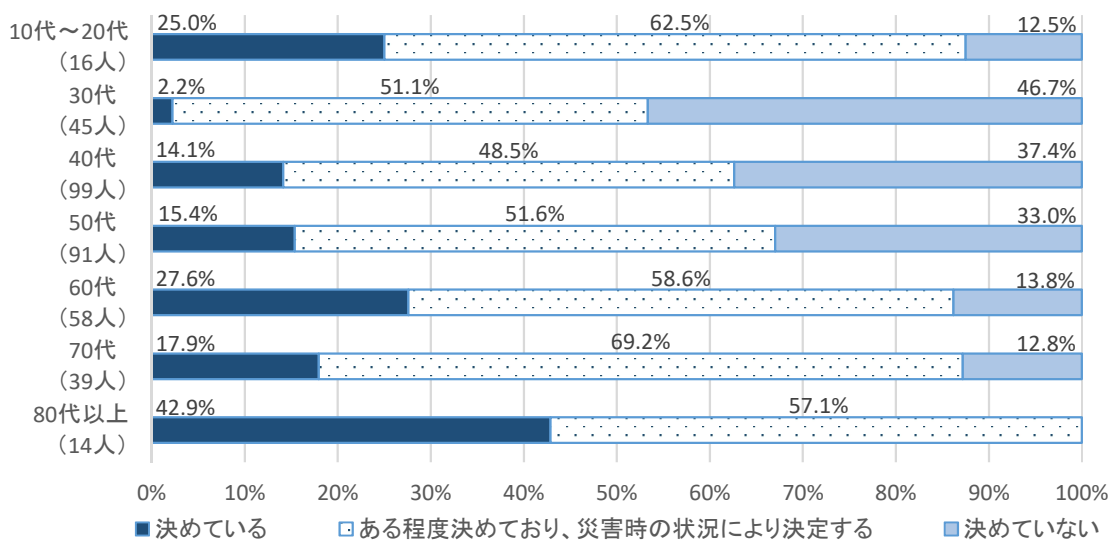


2022年度の調査結果

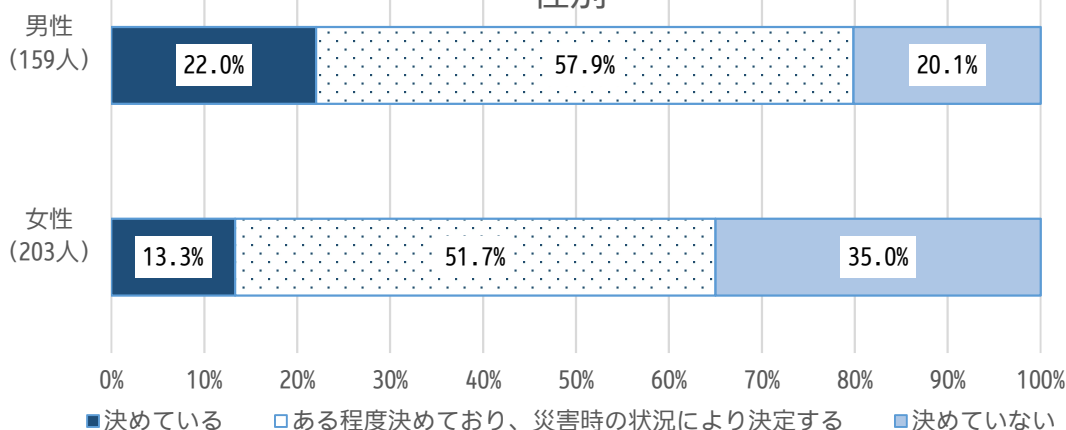


■決めている □ある程度決めており、災害時の状況により決定する ■決めていない

年代別



性別

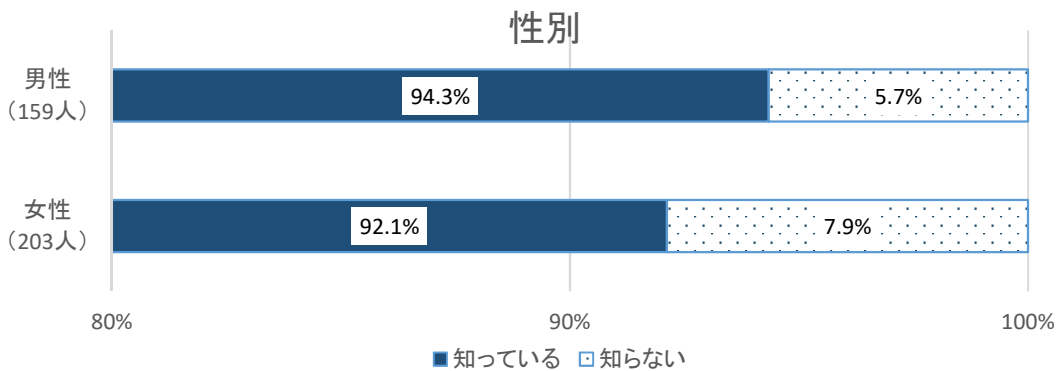
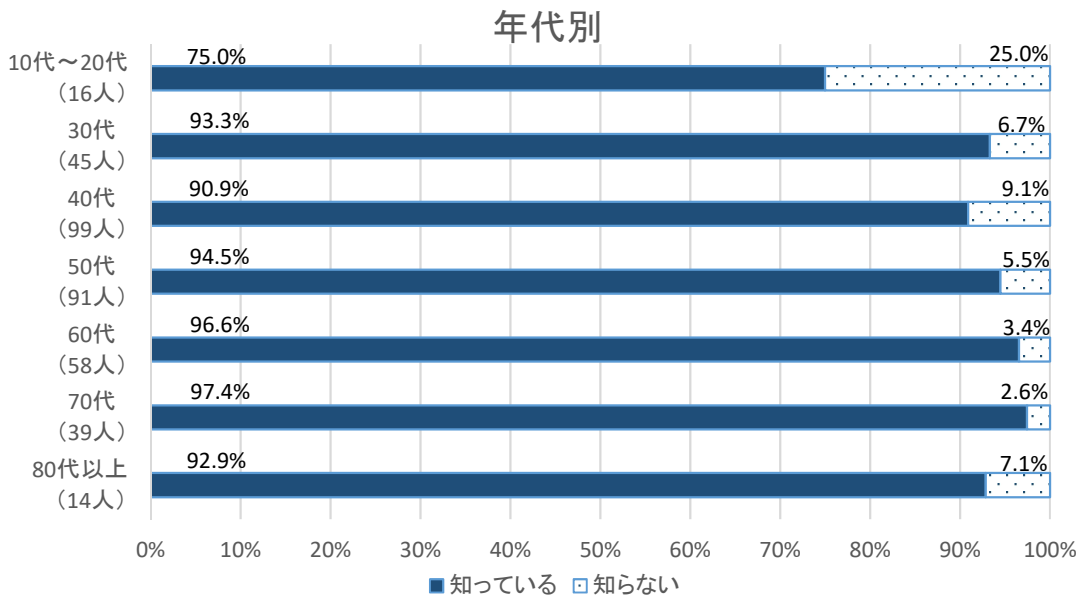
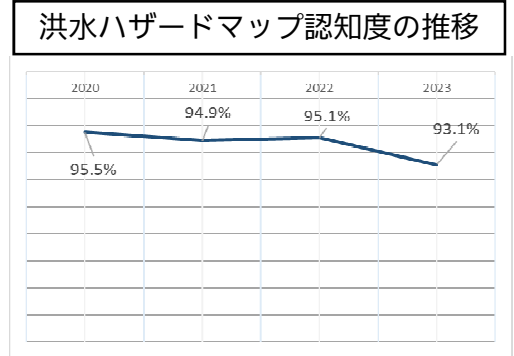
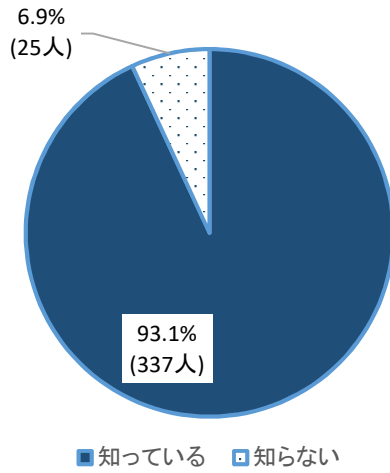


全体の17.1%が「決めている」、54.4%が「ある程度決めており、災害時の状況により決定する」と回答し、合わせて71.5%が何かしら避難ルートを決めている。性別では、男性は79.9%、女性は65.0%が「決めている」もしくは「ある程度決めており、災害時の状況により決定する」と回答しており、女性よりも男性の方が14.9ポイント高い。

第2章 洪水ハザードマップについて

問3 郡山市洪水ハザードマップ（以下、洪水ハザードマップ）をご存知ですか？ （1つ選択）

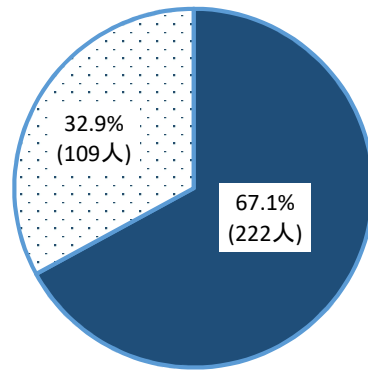
（回答者：362人）



全体の93.1%が「知っている」と回答し、洪水ハザードマップの認知度は9割を超えている。年代別では70代が97.4%と最も高く、一方、10代～20代は75%だった。性別では、男性は94.3%、女性は92.1%であり、どちらも9割以上が「知っている」と回答している。

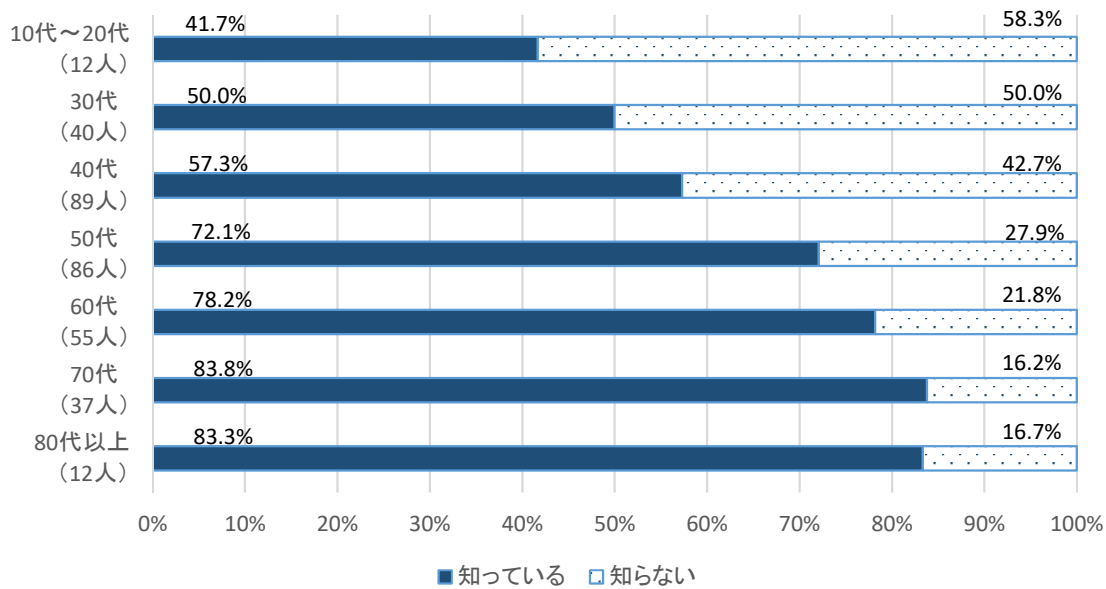
問4 問3で「知っている」を選択した方に伺います。本市が洪水ハザードマップを令和4年4月に改訂し、公表したことをご存知ですか？（1つ選択）

(回答者：331人)
(無回答：6人)



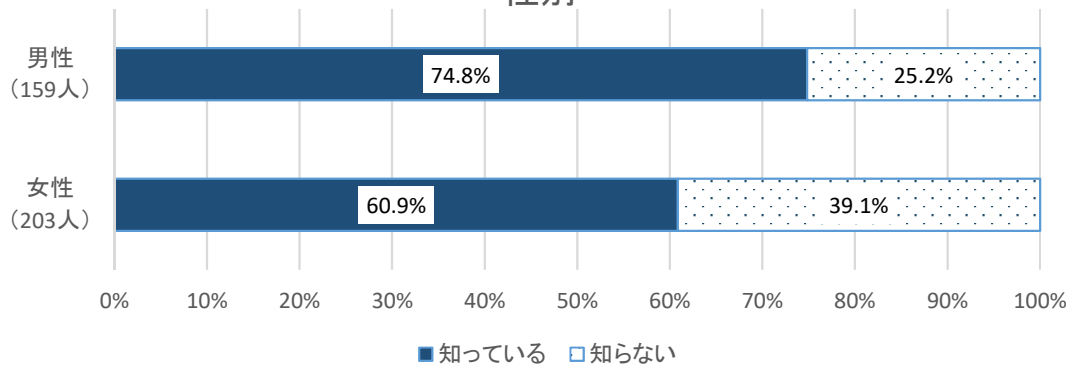
■ 知っている □ 知らない

年代別



■ 知っている □ 知らない

性別



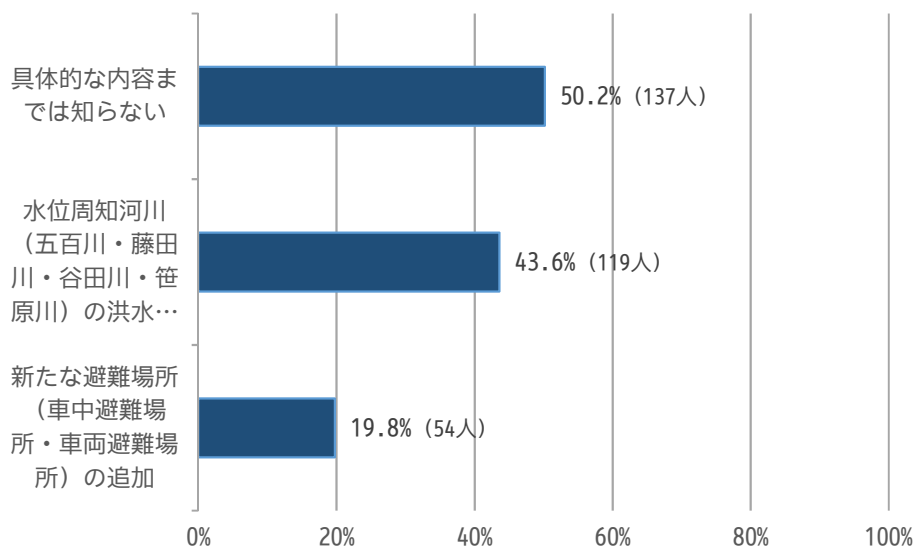
■ 知っている □ 知らない

問3で「知っている」と回答した方の内、67.1%が洪水ハザードマップの改訂について「知っている」と回答し、残りの32.9%は洪水ハザードマップについては知っているが、改訂されたことについては「知らない」という結果であった。年代別では、50代以上では7割以上が「知っている」と回答している。性別では、「知っている」と回答した割合が男性は74.8%、女性は60.9%であり、女性よりも男性の方が13.9ポイント高い。

問5 問3で「知っている」を選択した方に伺います。改訂の内容で知っている内容は何ですか？（複数選択可）

(回答者：273人)

(無回答：64人)



「具体的な内容までは知らない」が50.2%で最も多く、改訂したことは知っていたが、改訂内容までは知らない人が多くいることがわかる。また、「新たな避難場所（車中避難場所・車両避難場所）の追加」が19.8%で最も少ない結果となり、避難場所の選択肢として認知してもらえるよう周知を強化する必要がある。

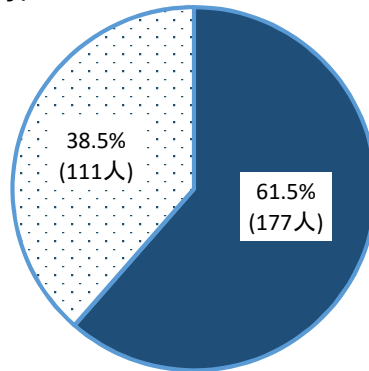
問6 問3で「知っている」を選択した方に伺います。洪水ハザードマップは、市ウェブサイトからダウンロードできることをご存知ですか？（1つ選択）

洪水ハザードマップURL

<https://www.city.koriyama.lg.jp/soshiki/126/2177.html>

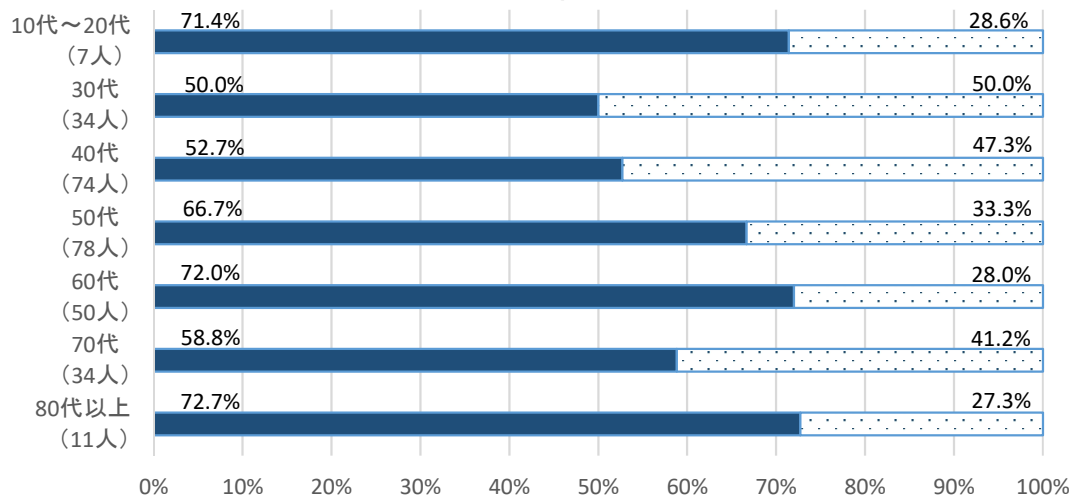
(回答者：288人)

(無回答：49人)



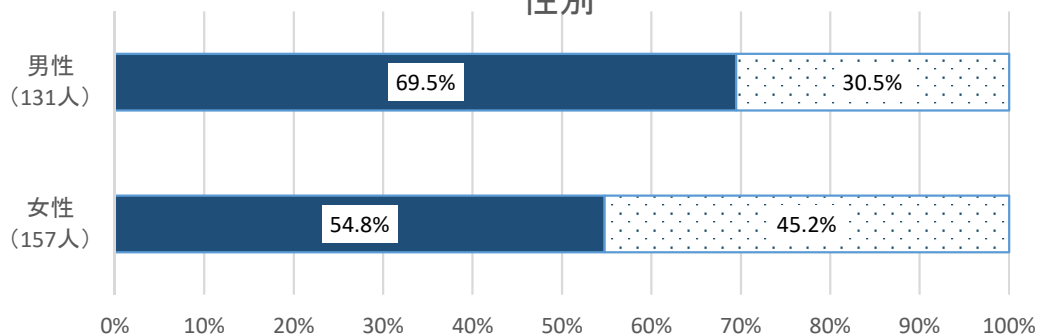
■ 知っている □ 知らない

年代別



■ 知っている □ 知らない

性別



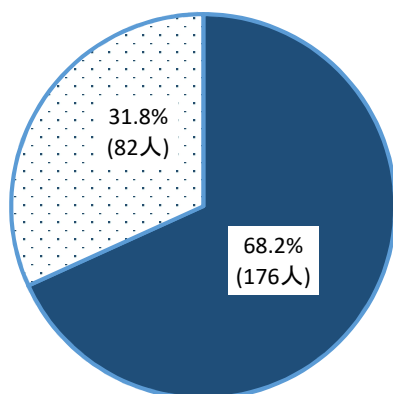
■ 知っている □ 知らない

問3で「知っている」と回答した方の内、61.5%が市ウェブサイトからダウンロードできることを「知っている」と回答している。年代別では、30代、40代、70代を除く各年代において約7割と割合が高い。性別では、男性は69.5%、女性は54.8%であり、女性よりも男性の方が14.7ポイント高い。

問7 洪水ハザードマップを使って、自宅や学校、職場等の水害リスクについて事前に確認していますか？（1つ選択）

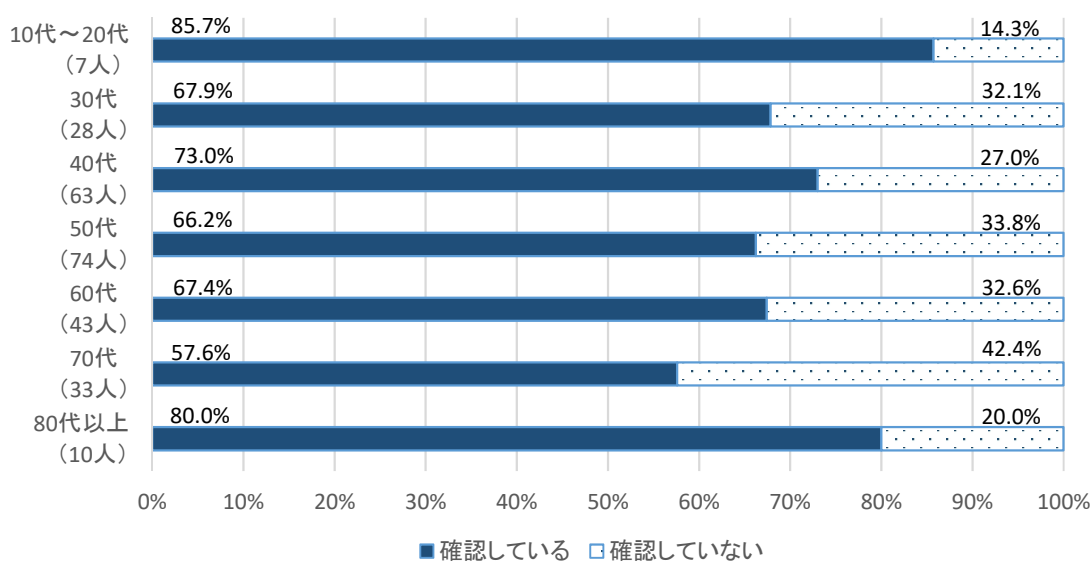
(回答者：258人)

(無回答：79人)



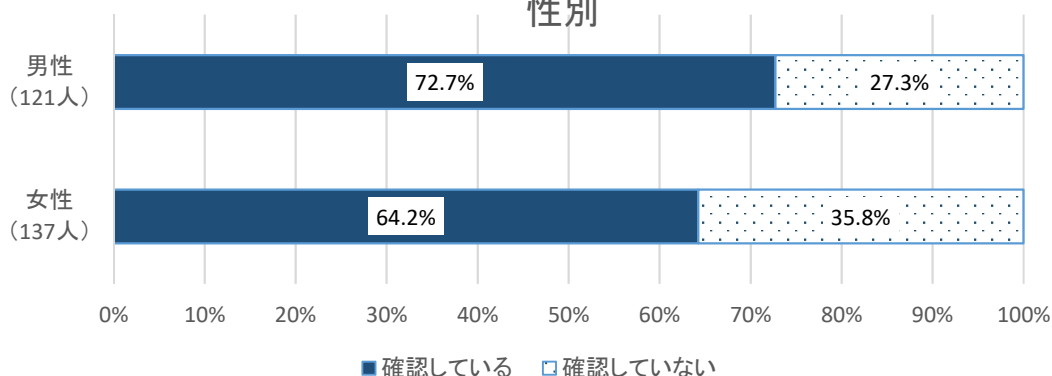
■ 確認している □ 確認していない

年代別



■ 確認している □ 確認していない

性別



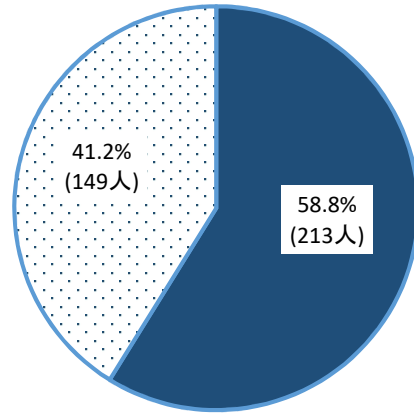
■ 確認している □ 確認していない

問3で「知っている」と回答した方の内、68.2%が「確認している」と回答している。年代別では、10代～20代、80代以上が8割以上と、他の年代と比較すると高い割合を示した。性別では、男性は72.7%、女性は64.2%が「知っている」と回答し、女性よりも男性の方が8.5ポイント高い。

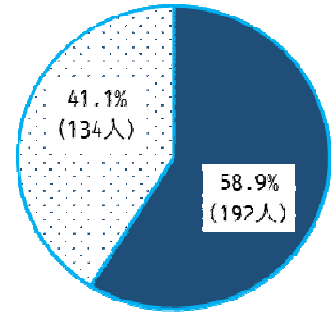
第3章 土砂災害ハザードマップについて

問8 郡山市土砂災害ハザードマップ（以下、土砂災害ハザードマップ）をご存知ですか？
（1つ選択）

（回答者：362人）

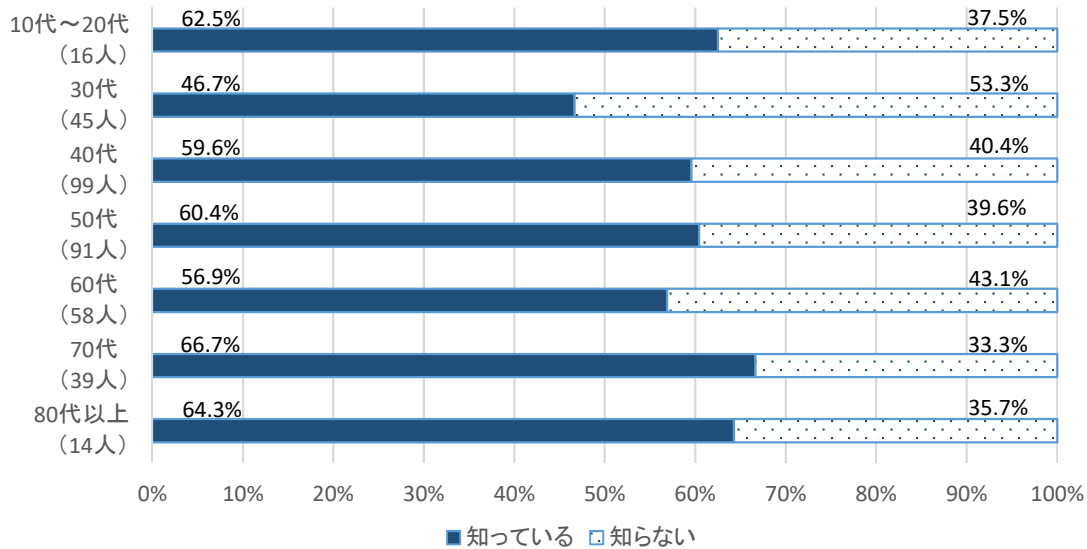


2022年度の調査結果



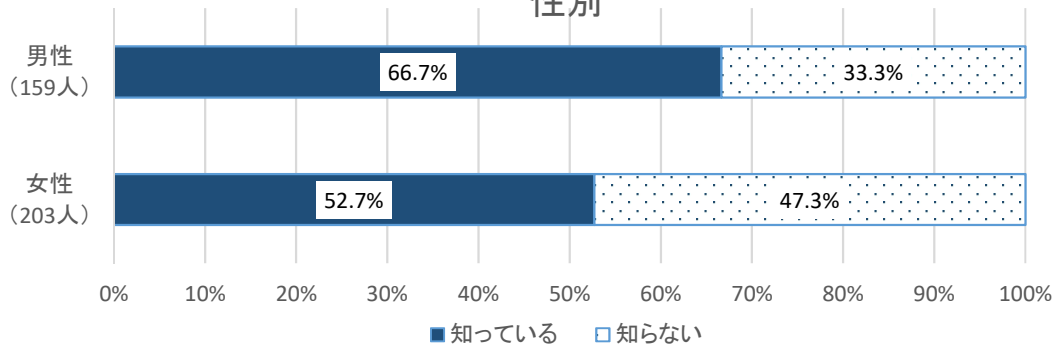
■ 知っている □ 知らない

年代別



■ 知っている □ 知らない

性別



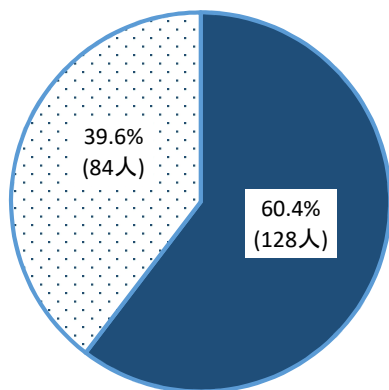
■ 知っている □ 知らない

全体の58.8%が土砂災害ハザードマップを「知っている」と回答している。年代別では、30代を除く各年代において約6割以上が「知っている」と回答している。また、性別では、男性66.7%、女性は52.7%が「知っている」と回答し、女性よりも男性の方が14ポイント高い。

問9 問8で「知っている」を選択した方に伺います。本市が土砂災害ハザードマップを令和3年3月に改訂し、公表したことをご存知ですか？（1つ選択）

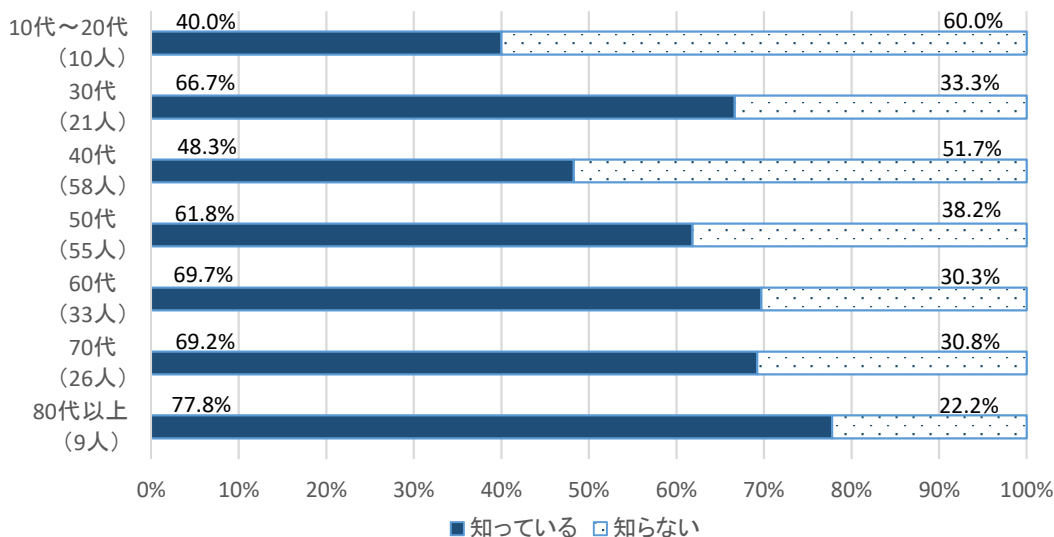
(回答者：212人)

(無回答：1人)



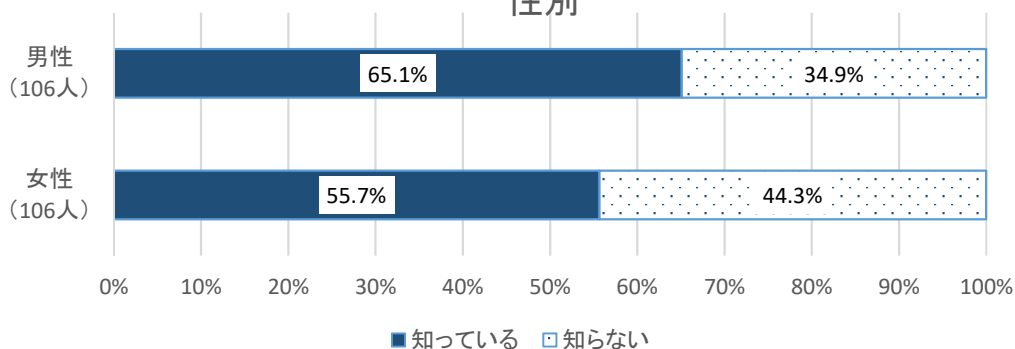
■ 知っている □ 知らない

年代別



■ 知っている □ 知らない

性別



■ 知っている □ 知らない

土砂災害ハザードマップの改訂について、60.4%が「知っている」と回答している。年代別では、30代以上の約半数以上が「知っている」と回答している。また、性別では、男性は65.1%、女性は55.7%となっており、女性よりも男性の方が9.4ポイント高い。

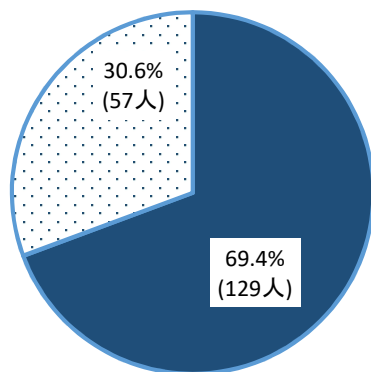
問10 問8で「知っている」を選択した方に伺います。土砂災害ハザードマップは、市ウェブサイトからダウンロードできることをご存知ですか？（1つ選択）

土砂災害ハザードマップURL

<https://www.city.koriyama.lg.jp/soshiki/126/2172.html>

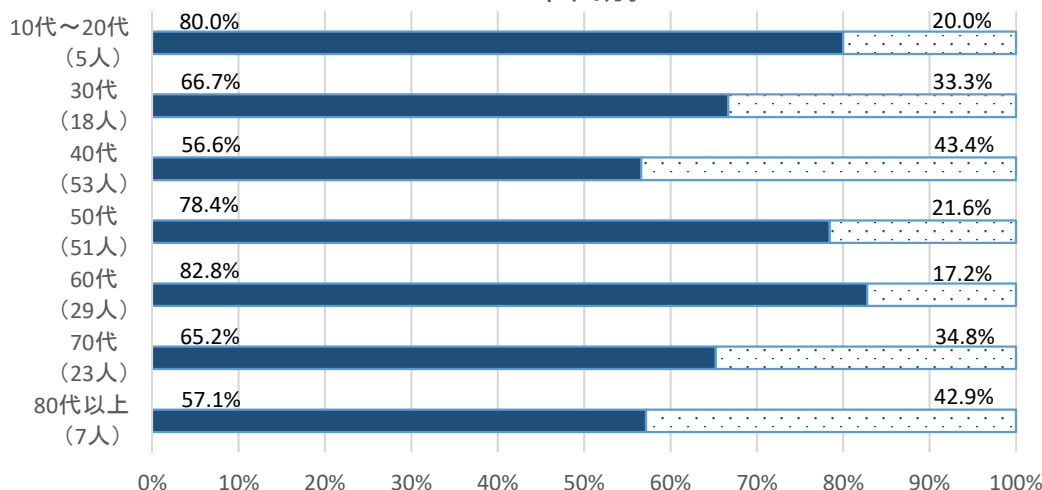
(回答者：186人)

(無回答：27人)



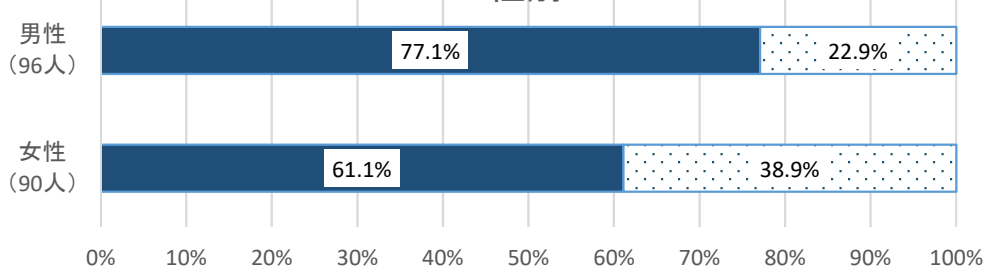
■ 知っている □ 知らない

年代別



■ 知っている □ 知らない

性別

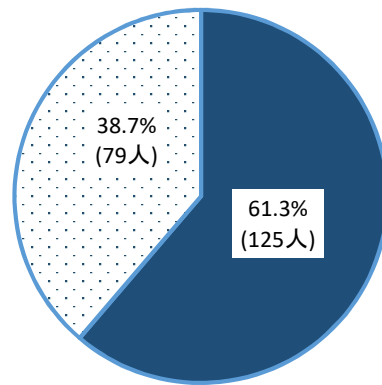


■ 知っている □ 知らない

土砂災害ハザードマップのダウンロードについて、69.4%が「知っている」と回答している。年代別では、10代～20代および50代から60代において約8割と割合が高く、各年代で半数以上が「知っている」と回答している。また、性別では、男性は77.1%、女性は61.1%となっており、女性よりも男性の方が16ポイント高い。

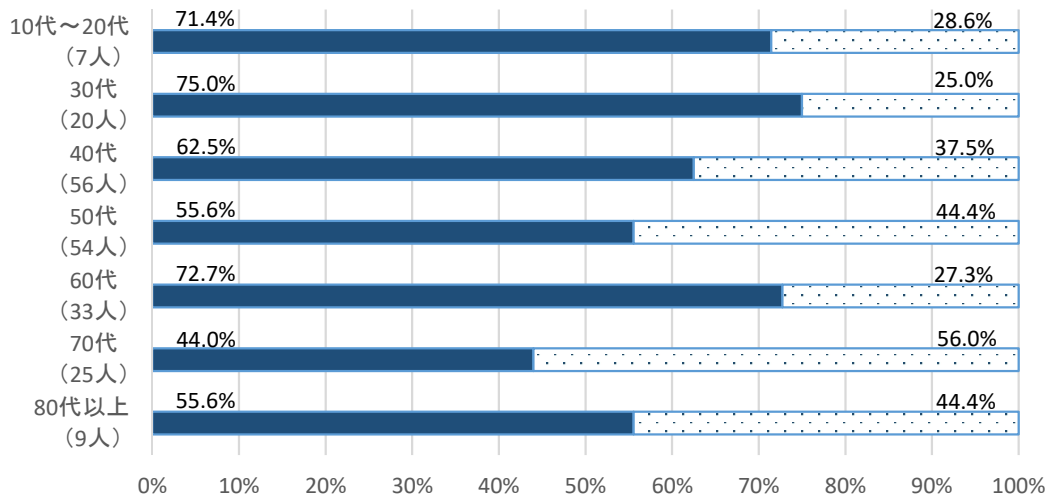
問11 土砂災害ハザードマップを使って、自宅や学校、職場等の土砂災害リスクについて事前に確認していますか？（1つ選択）

(回答者：204人)
(無回答：9人)



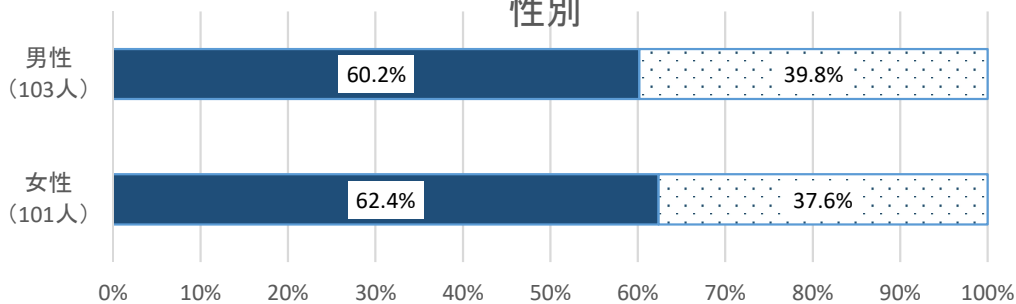
■ 確認している □ 確認していない

年代別



■ 確認している □ 確認していない

性別



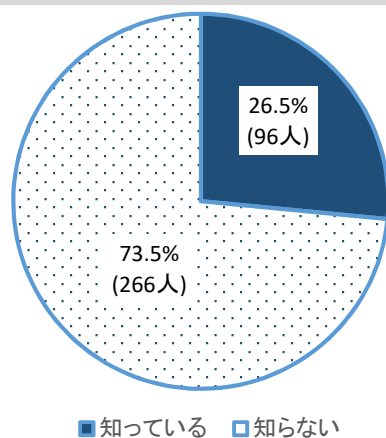
■ 確認している □ 確認していない

問8で「知っている」と回答した方の内、61.3%が土砂災害リスクについて事前に「確認している」と回答している。年代別では、10代～20代、30代、60代において約7割と割合が高い。性別では、男性は60.2%、女性は62.4%であり、ともに約6割が「確認している」と回答している。

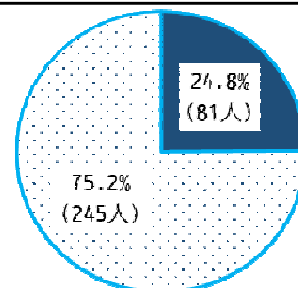
第4章 液状化ハザードマップについて

問12 郡山市液状化ハザードマップ（以下、液状化ハザードマップ）をご存知ですか？
（1つ選択）

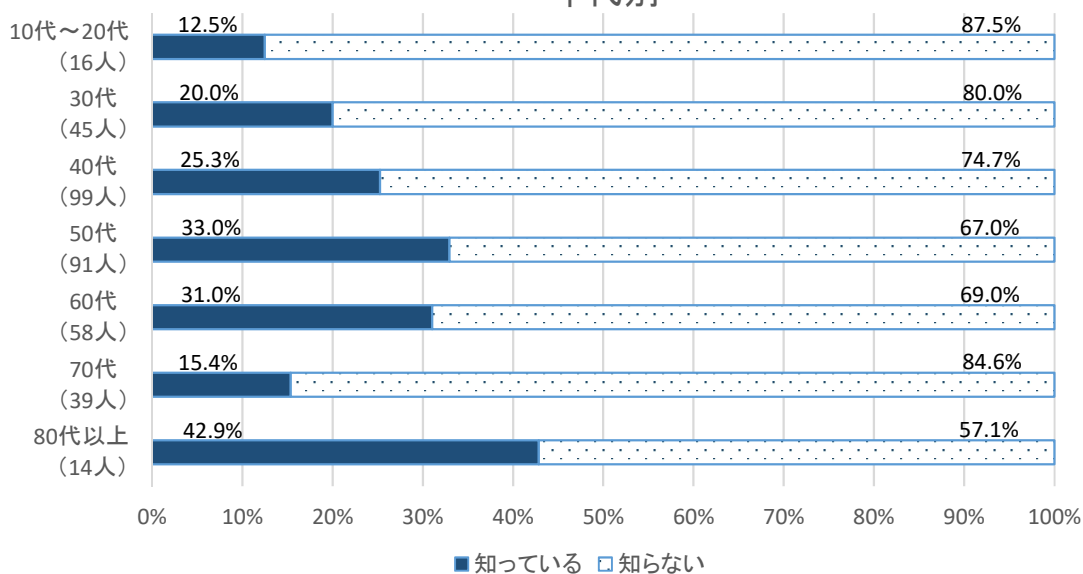
（回答者：362人）



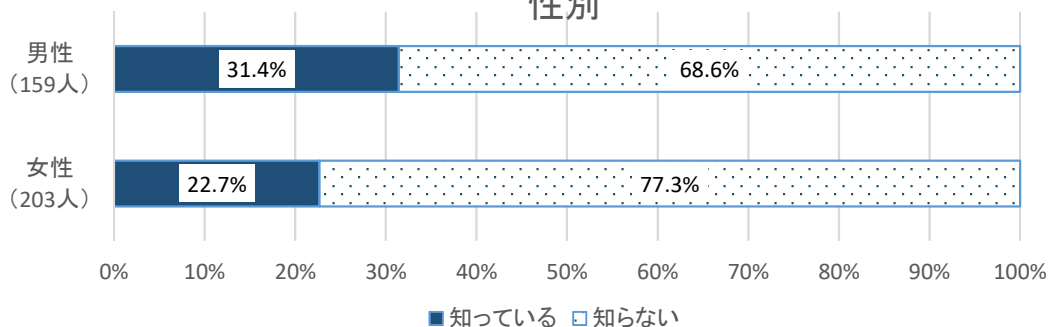
2022年度の調査結果



年代別



性別

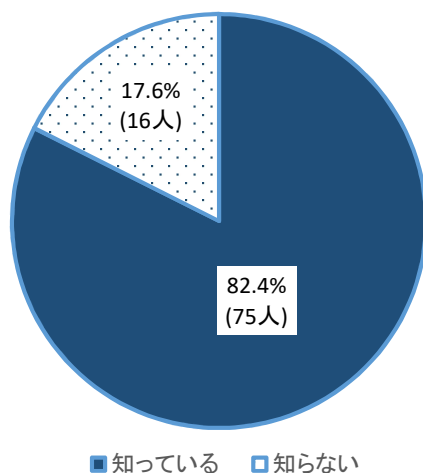


全体の26.5%が「知っている」と回答している。年代別では、どの年代においても「知っている」と回答したのは5割以下で、全体的に認知度が低い。性別では、男性は31.4%、女性は22.7%が「知っている」と回答し、男女ともに認知度が低い。

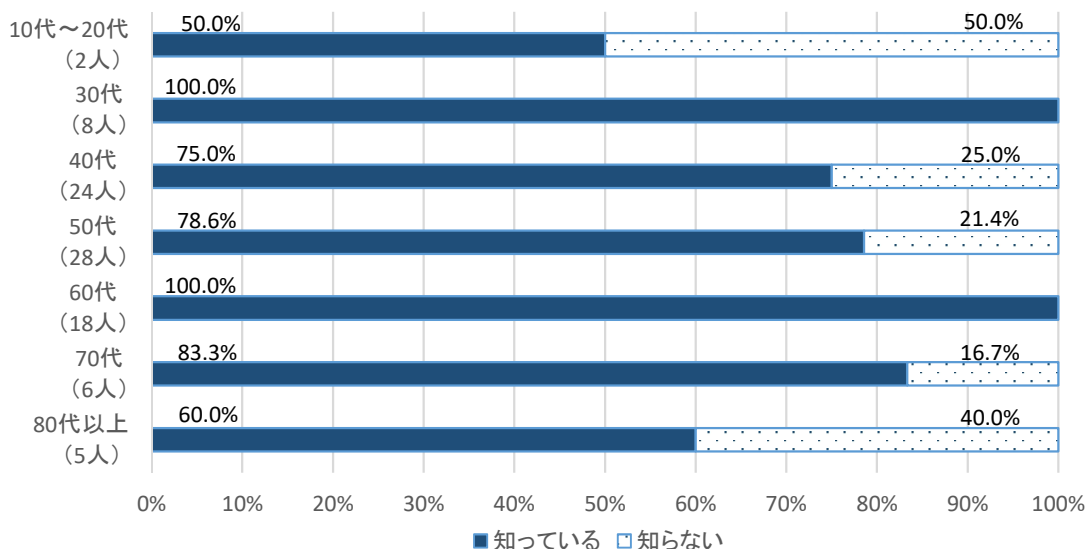
問13 問12で「知っている」を選択した方に伺います。本市が液状化ハザードマップを令和3年3月に作成し、公表したことをご存知ですか？（1つ選択）

(回答者：91人)

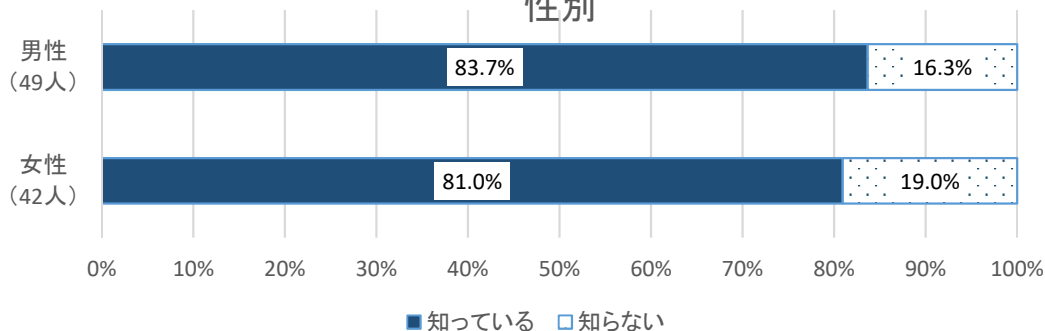
(無回答：5人)



年代別



性別



問12で「知っている」と回答した方の中、82.4%が「知っている」と回答している。年代別では、30代以降の世代で6割以上と高い割合を示しており、液状化ハザードマップを知っている人のほとんどが、令和3年3月に新たに作成されたことを知っていた。性別では、男性は83.7%、女性は81.0%が「知っている」と回答し、ともに約8割と割合が高い。

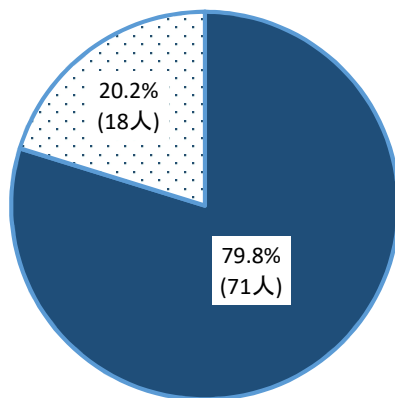
問14 問12で「知っている」を選択した方に伺います。液化化ハザードマップは、市ウェブサイトからダウンロードできることをご存知ですか？(1つ選択)

液化化ハザードマップURL

<https://www.city.koriyama.lg.jp/soshiki/126/2180.html>

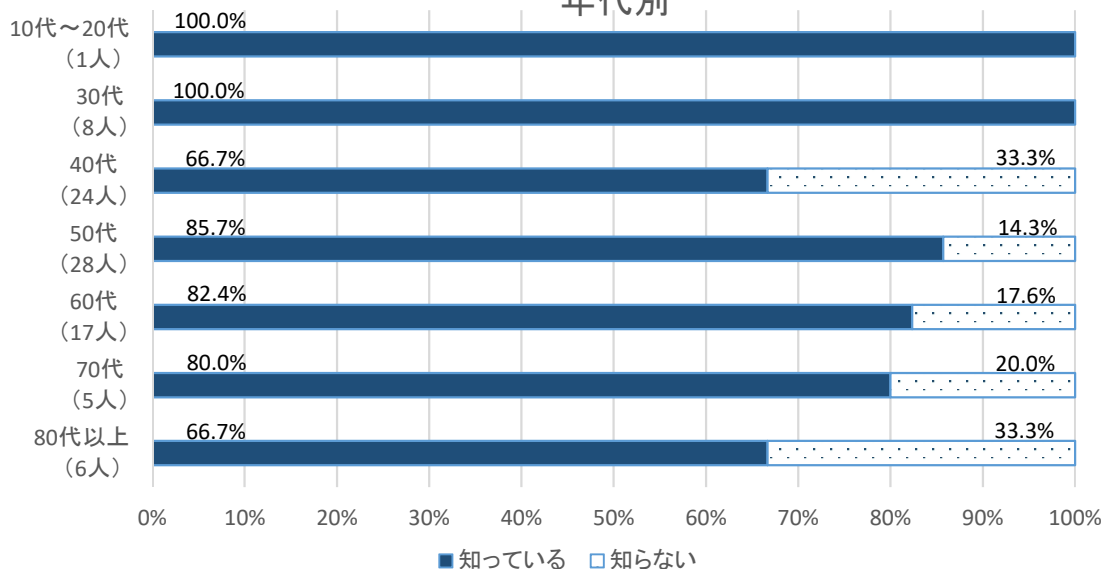
(回答者： 89人)

(無回答： 7人)



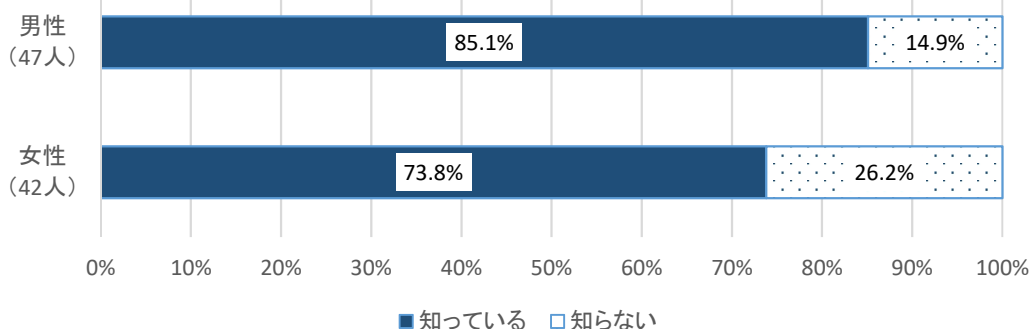
■ 知っている □ 知らない

年代別



■ 知っている □ 知らない

性別



■ 知っている □ 知らない

問12で「知っている」と回答した方の中、液化化ハザードマップのダウンロードについて、79.8%が「知っている」と回答している。年代別では、40代、80代以上を除く各年代において8割以上が「知っている」と回答している。また、性別では、男性は85.1%、女性は73.8%が「知っている」と回答し、女性よりも男性の方が11.3ポイント高い。

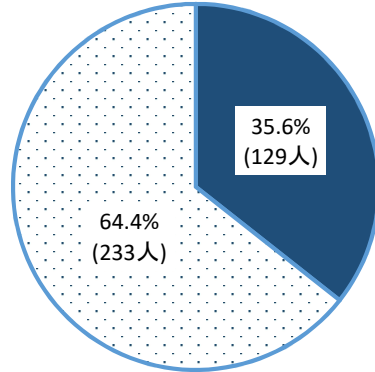
第5章 郡山市地理情報システムについて

問15 インターネットで洪水浸水想定区域や浸水深、土砂災害（特別）警戒区域等を見ることができるサービス「郡山市地理情報システム」をご存知ですか？（1つ選択）

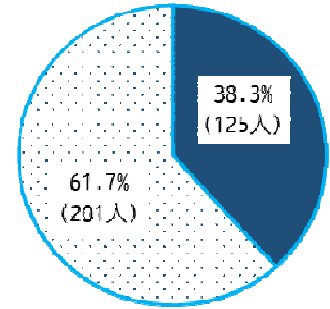
郡山市地理情報システムURL

（回答者：362人）

<https://www.city.koriyama.lg.jp/soshiki/22/1161.html>

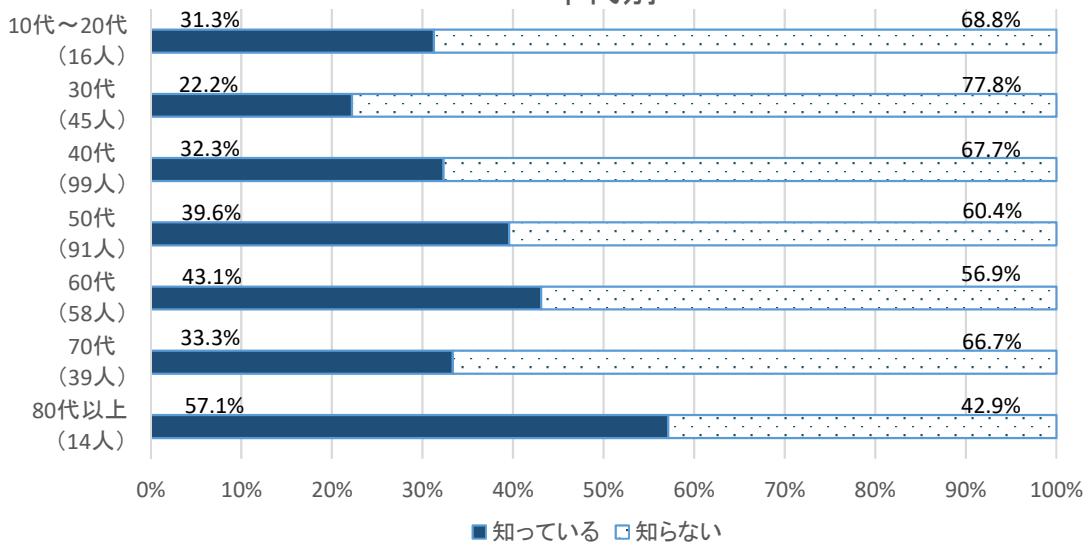


2022年度の調査結果



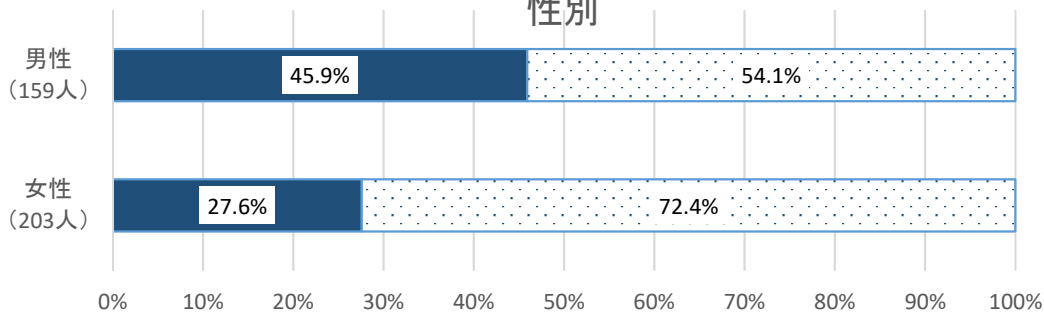
■ 知っている □ 知らない

年代別



■ 知っている □ 知らない

性別



■ 知っている □ 知らない

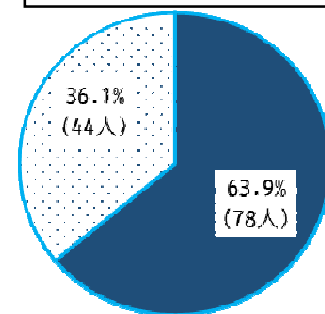
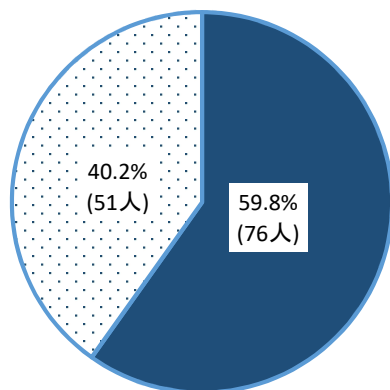
全体の35.6%が「知っている」と回答している。年代別では、80代以上を除く各世代において半数以下の割合を示していることから、「郡山市地理情報システム」の認知度は低い。性別では、男性は45.9%、女性は27.6%が「知っている」と回答し、女性よりも男性の方が18.3ポイント高い。

問16 問15で「知っている」を選択した方に伺います。郡山市地理情報システムを使って自宅や学校、職場等の水害リスク、土砂災害リスクについて事前に確認していますか？
(1つ選択)

(回答者：127人)

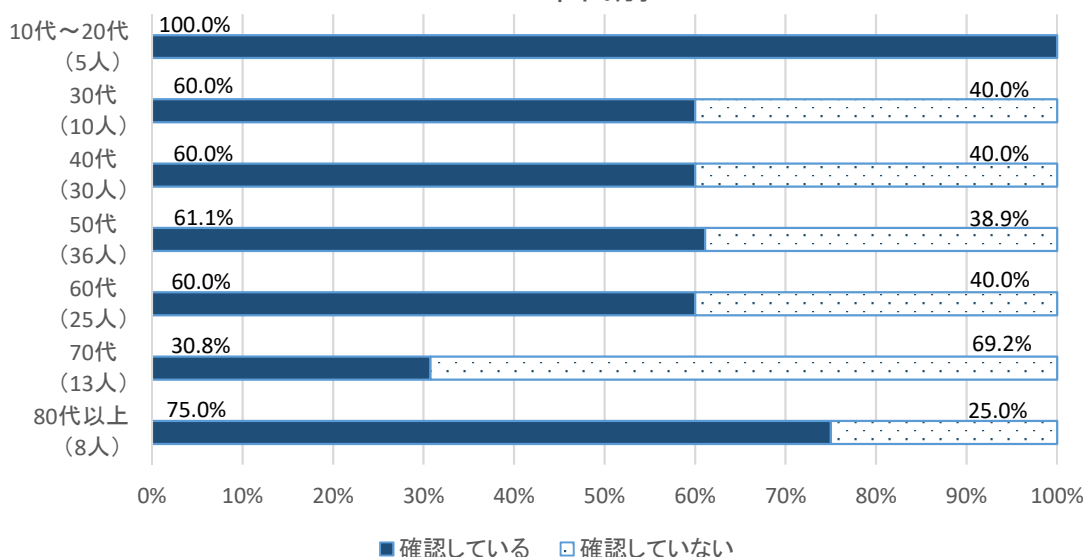
(無回答：2人)

2022年度の調査結果



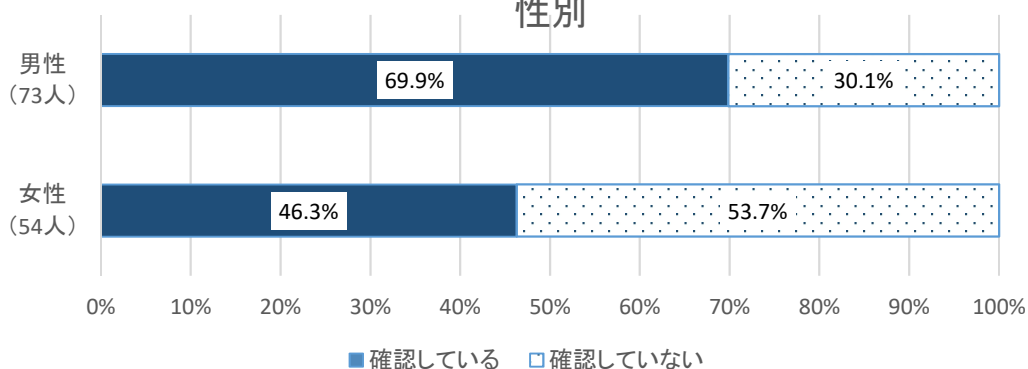
■ 確認している □ 確認していない

年代別



■ 確認している □ 確認していない

性別



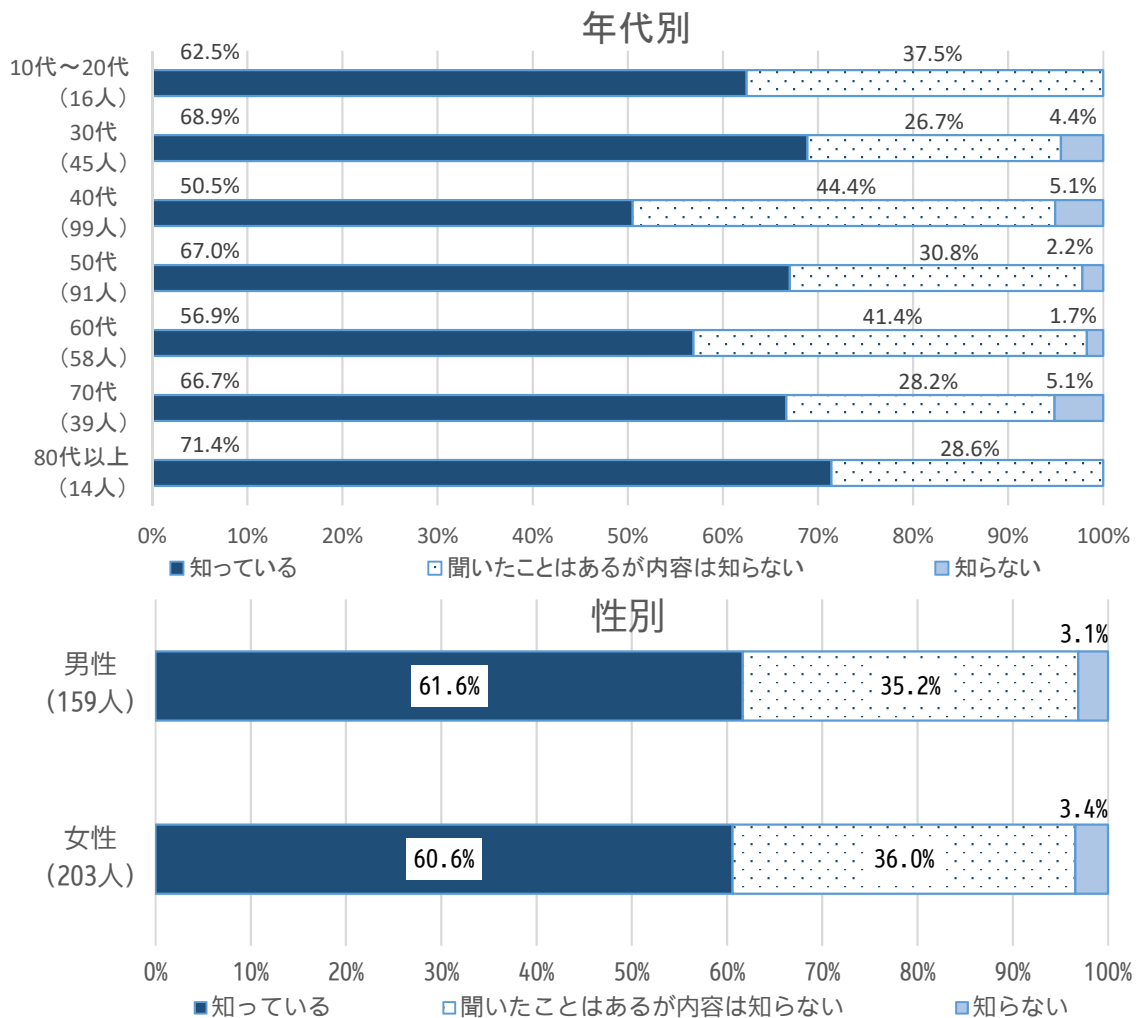
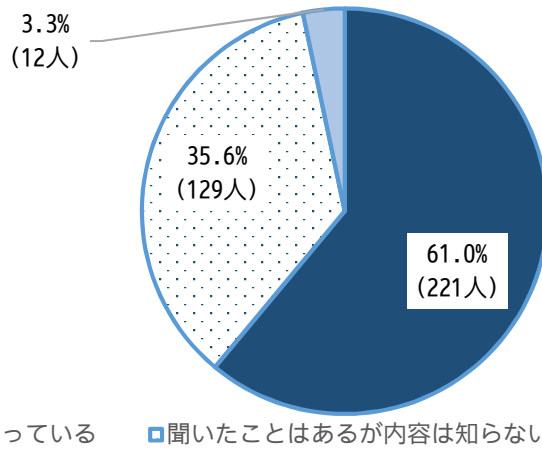
■ 確認している □ 確認していない

問15で「知っている」と回答した方の内、59.8%が「確認している」と回答している。70代を除いて、どの年代も6割以上であり、郡山市地理情報システムを用いてリスクの確認を行っている人の割合は全体的に高い。性別では、男性は69.9%、女性は46.3%であり、女性よりも男性の方が23.6ポイント高い。

第6章 避難等について

問17 警戒レベルについてご存知ですか？（1つ選択）

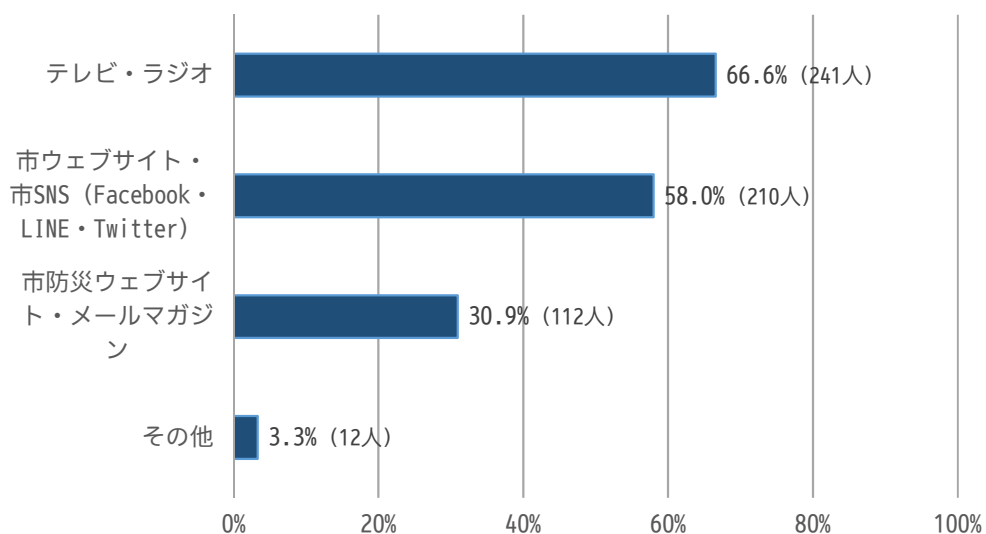
（回答者：362人）



全体の61.0%が「知っている」、35.6%が「聞いたことはあるが内容は知らない」と回答し、合わせて96.6%が警戒レベルを聞いたことがある。性別では、男性は96.8%、女性は96.6%であり、ともに9割以上が「知っている」もしくは「聞いたことはあるが内容は知らない」と回答している。

問18 本市では、災害情報や避難情報などを様々な手段で配信していますが、どのような手段で情報を取得していますか？（複数選択）

（回答者：362人）



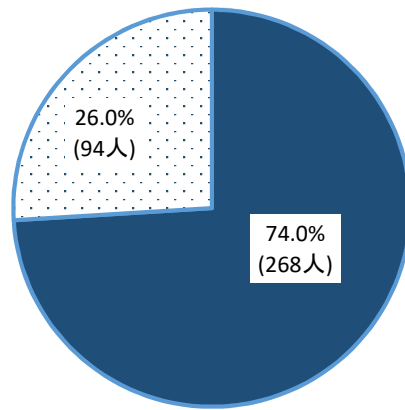
■ 「その他」を選択した方の主な意見

- ・スマホアプリの通知
- ・防災無線
- ・広報こおりやま

「テレビ・ラジオ」が66.6%で最も多く、「市ウェブサイト・市SNS (Facebook・LINE・Twitter)」が58.0%で次に多い結果となった。

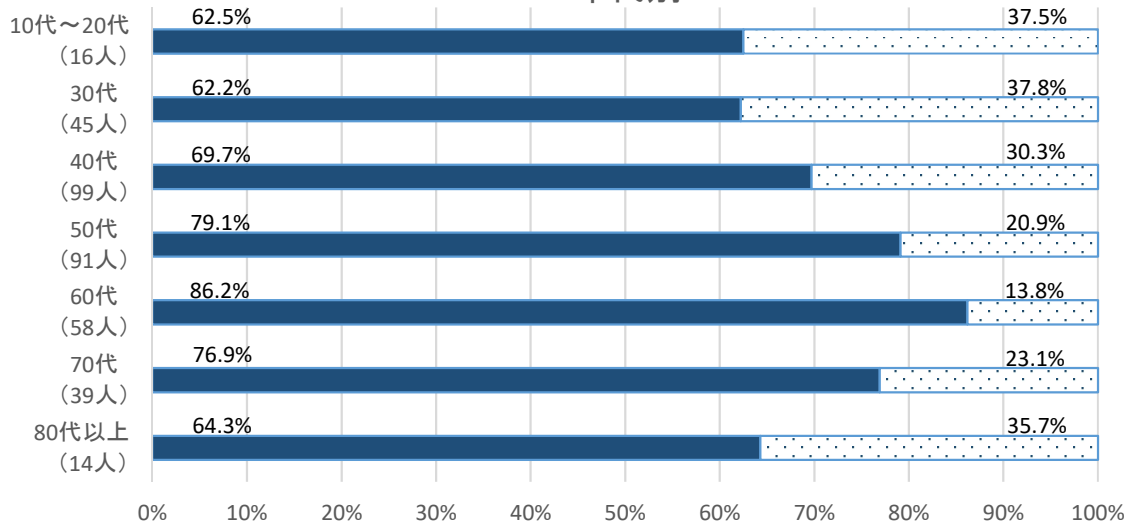
問19 「わが家の防災ハンドブック」をご存知ですか？（1つ選択）

（回答者：362人）



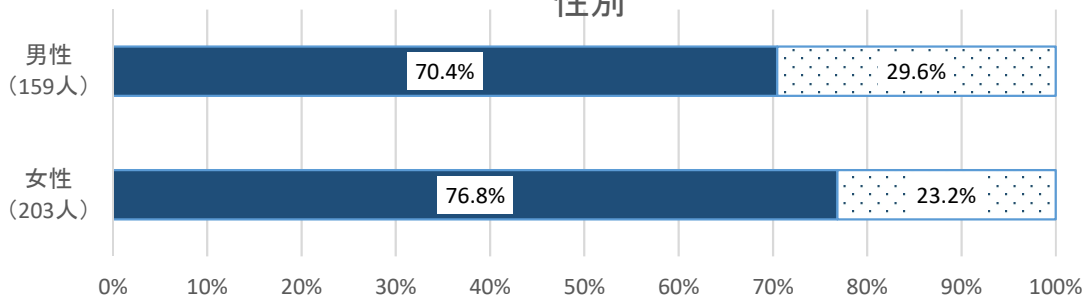
■ 知っている □ 知らない

年代別



■ 知っている □ 知らない

性別

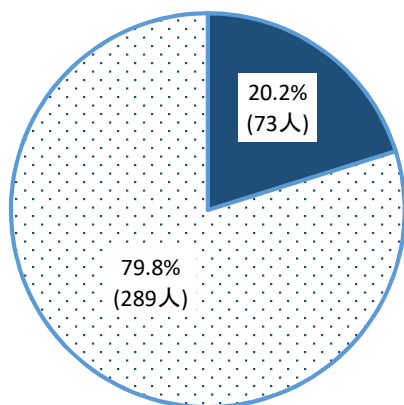


■ 知っている □ 知らない

全体の74.0%が「知っている」と回答している。年代別では、どの年代においても6割以上となっており、認知度は高い。性別では、男性は70.4%、女性は76.8%であり、ともに7割以上が「知っている」と回答している。

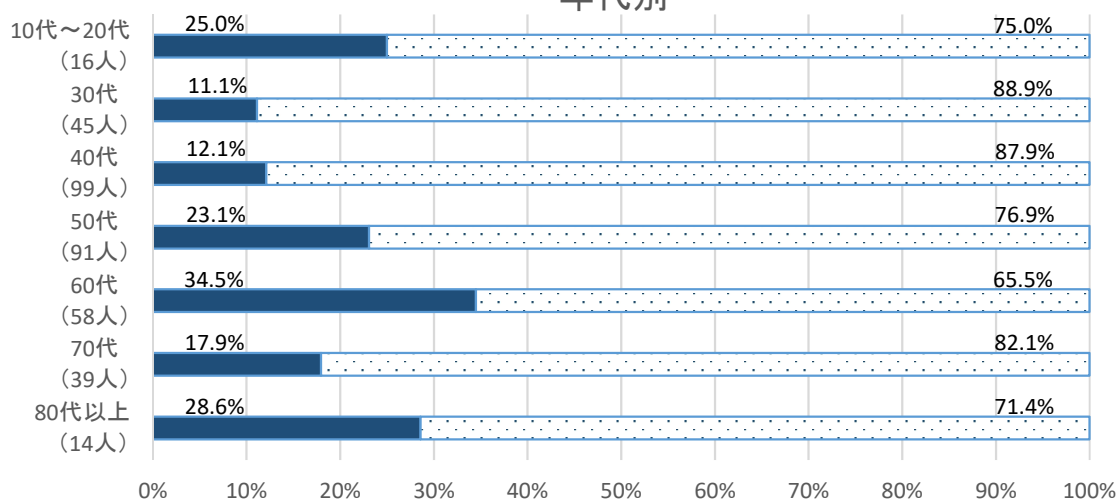
問20 洪水等に備え活用できる「マイ・タイムライン（※）」をご存知ですか？（1つ選択）
 （※）台風の接近によって大雨などにより河川の水位が上昇する時に、「いつ・どんなとき・何をするか」をあらかじめ整理した自分自身の防災行動計画

（回答者：362人）



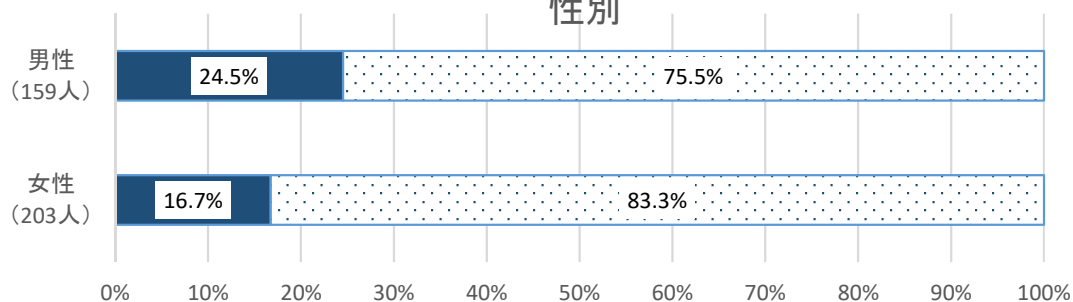
■ 知っている □ 知らない

年代別



■ 知っている □ 知らない

性別

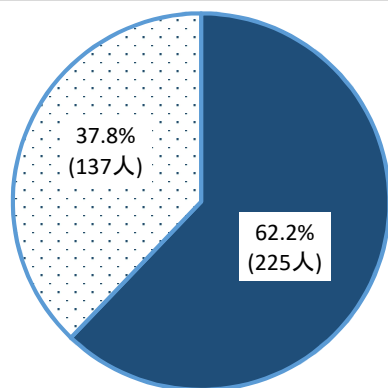


■ 知っている □ 知らない

全体の79.8%が「知らない」と回答している。年代別では、どの年代においても4割以下となっており、認知度は低い。性別では、男性は24.5%、女性は16.7%が「知っている」と回答しており、ともに認知度が低い。

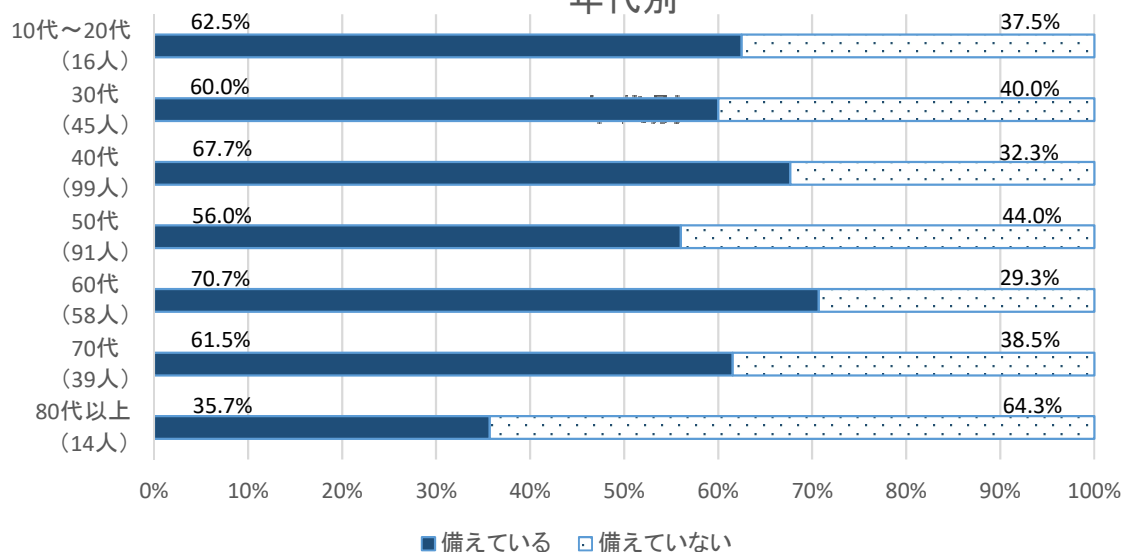
問21 家庭内に災害のための非常用備蓄品を備えていますか？（1つ選択）

（回答者：362人）



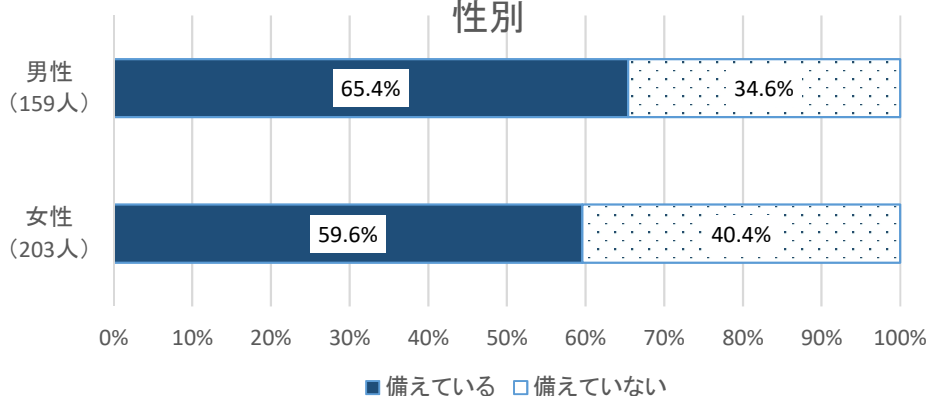
■ 備えている □ 備えていない

年代別



■ 備えている □ 備えていない

性別

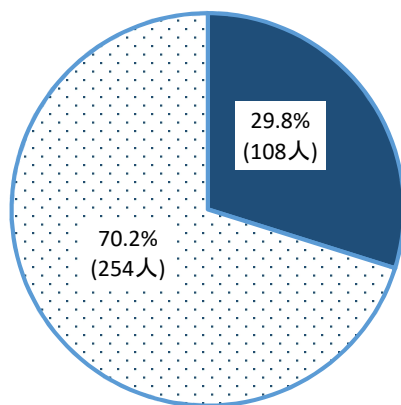


■ 備えている □ 備えていない

非常用備蓄品を62.2%が「備えている」と回答している。年代別では、80代以上を除く各年代において半数以上が「備えている」と回答している。また、性別では、男性は65.4%、女性は59.6%であり、ともに約6割が「備えている」と回答している。

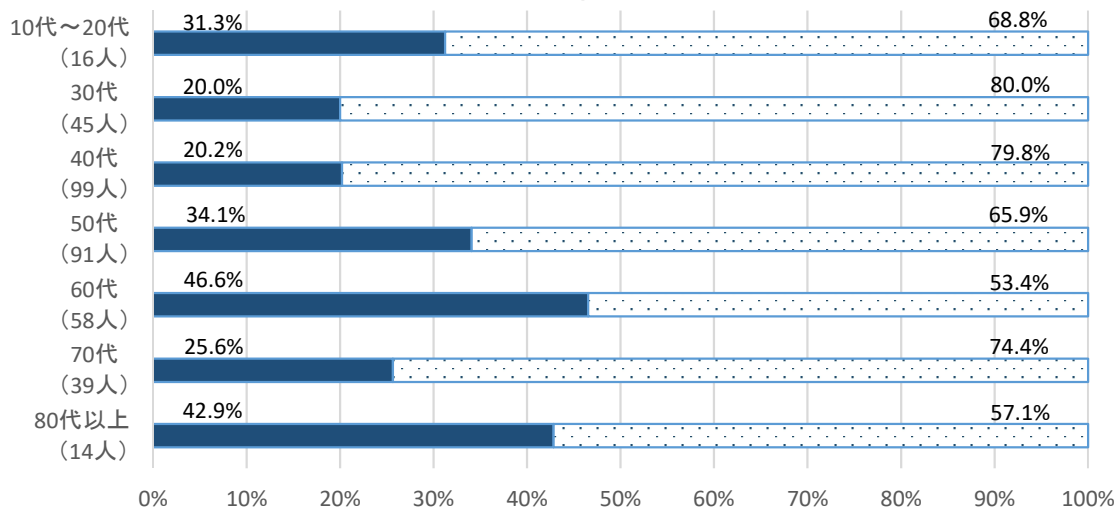
問22 高齢者や障がい者など、災害時に一人では避難することが困難な方（避難行動要支援者）を避難支援するために作成する「個別行動計画」をご存知ですか？（1つ選択）

（回答者：362人）



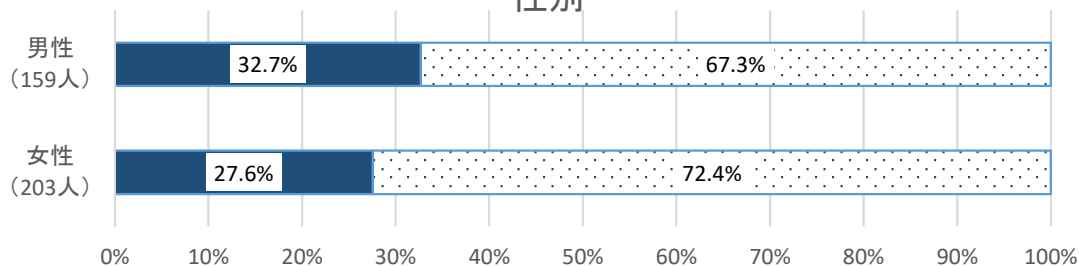
■ 知っている □ 知らない

年代別



■ 知っている □ 知らない

性別



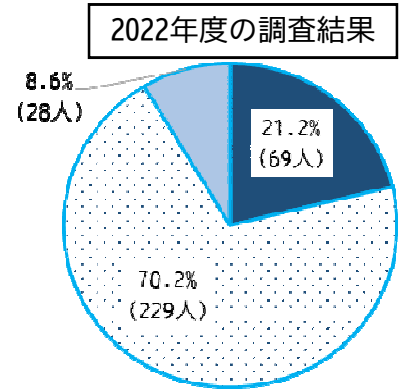
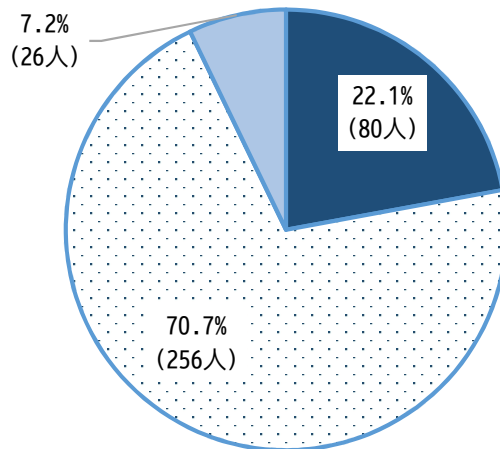
■ 知っている □ 知らない

全体の70.2%が「知らない」と回答している。年代別では、どの年代においても「知っている」は半数以下となっており、性別では、男性は32.7%、女性は27.6%であり、認知度は低い。

第7章 その他

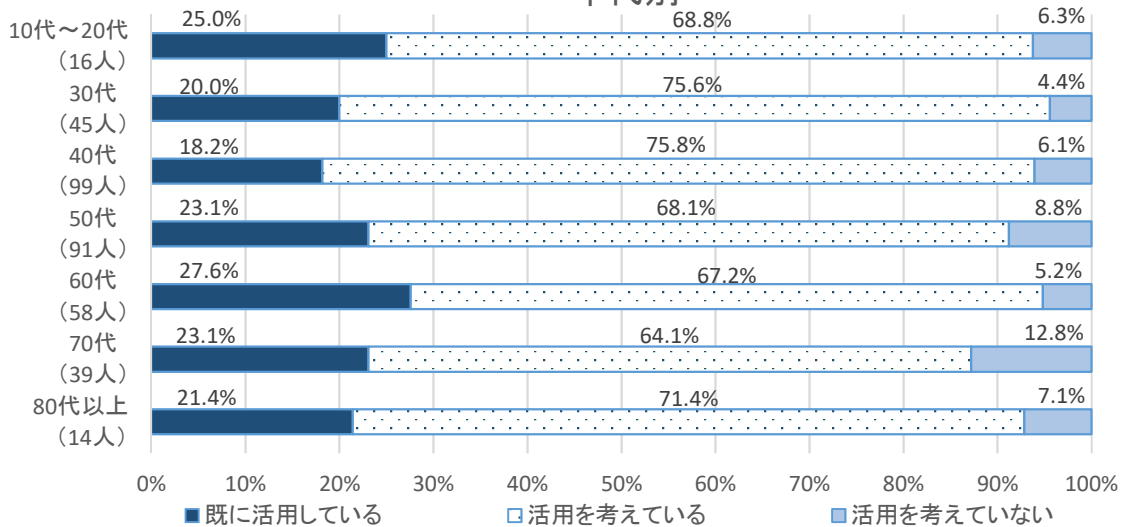
問23 今回のアンケートを機に各種ハザードマップ（洪水、土砂災害、液状化）を活用しようと思いませんか？（1つ選択）

（回答者：362人）

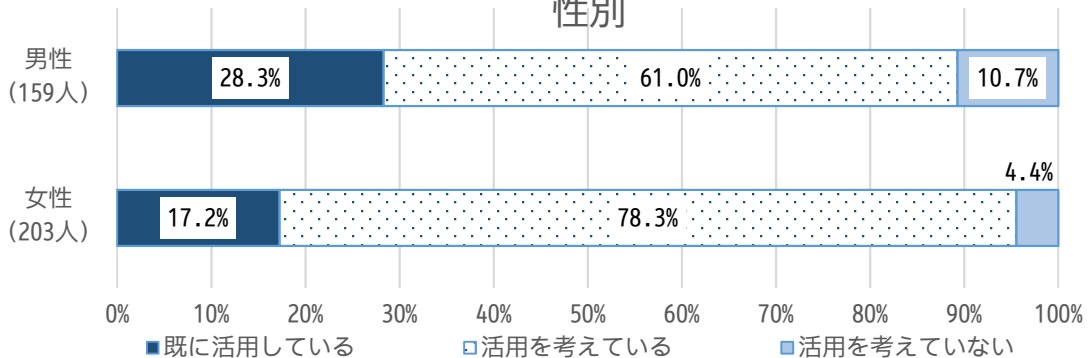


■既に活用している □活用を考えている ■活用を考えていない

年代別



性別

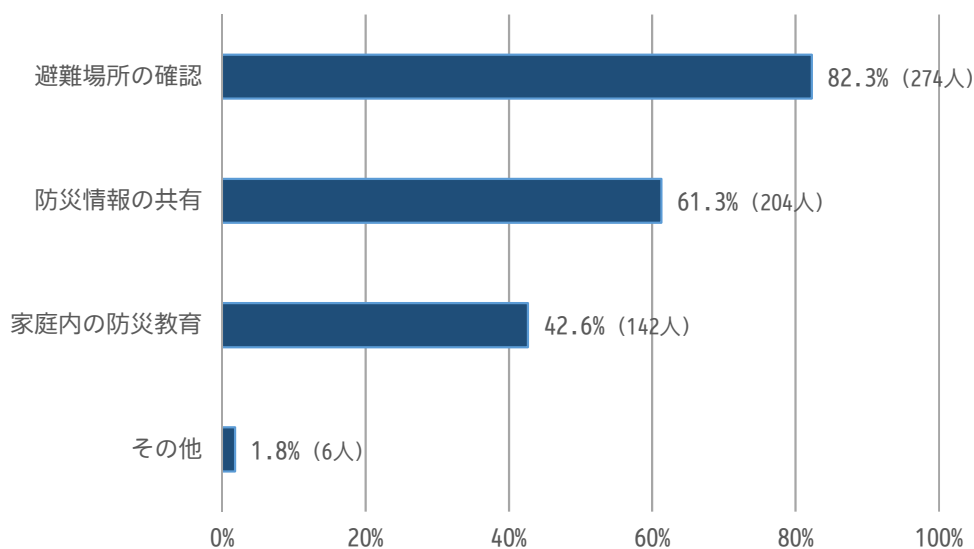


全体の22.1%が「既に活用している」、70.7%が「活用を考えている」と回答し、合わせて92.8%が各種ハザードマップの活用について考えている。性別では、男性は89.3%、女性は95.5%であり、ともに約9割が「既に活用している」もしくは「活用を考えている」と回答している。

問24 問23で「既に活用している」や「活用を考えている」を選択した方に伺います。どういった活用を実行していたり、考えていますか？（複数選択可）

(回答者：333人)

(無回答：3人)



■ 「その他」を選択した方の主な意見

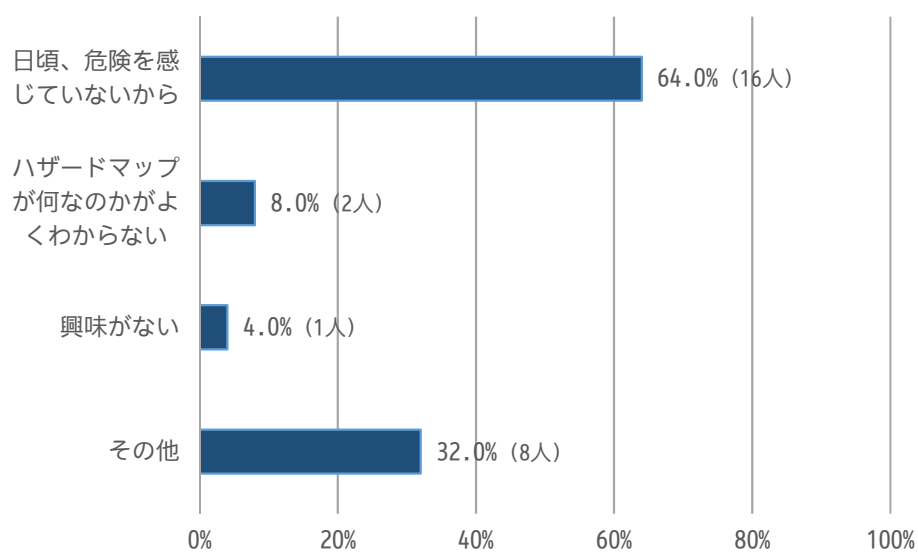
- ・ 職場の防災計画マニュアル作成と訓練の実施
- ・ 自主防災会の活動
- ・ 転居時の住宅探しと決定

「避難場所の確認」が82.3%で最も多く、「防災情報の共有」が61.3%で次に多い結果となった。

問25 問23で「活用を考えていない」を選択した方に伺います。それはなぜですか？
(複数選択可)

(回答者：25人)

(無回答：1人)



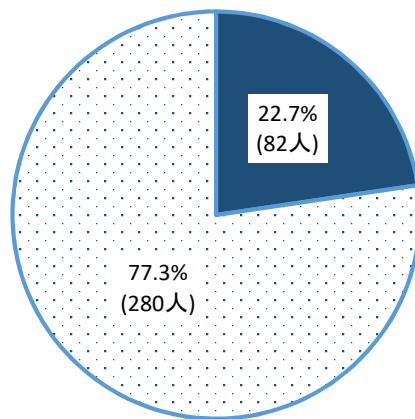
■「その他」を選択した方の主な意見

- ・住んでいる地域が水害などには影響がない地区であるため
- ・ハザードマップは理解しているがどうしたらいいかわからない

「日頃、危険を感じていないから」が64.0%で最も多く、次いで「ハザードマップが何なのかがよくわからない」が8.0%であった。

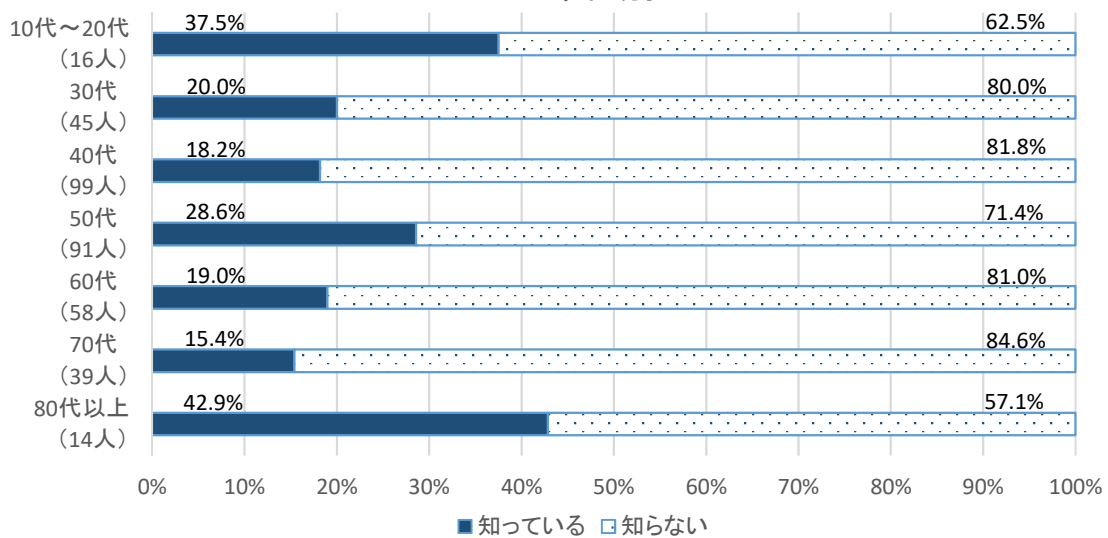
問26 本市では、局地的大雨（ゲリラ豪雨）による浸水被害を軽減するために「郡山市ゲリラ豪雨対策9年プラン」を策定していますが、ご存知ですか？（1つ選択）

（回答者：362人）



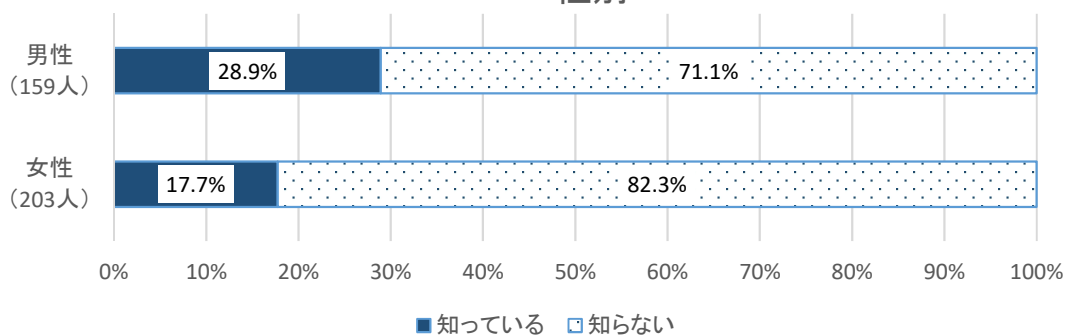
■ 知っている □ 知らない

年代別



■ 知っている □ 知らない

性別



■ 知っている □ 知らない

全体の77.3%が「知らない」と回答している。年代別では、どの年代においても「知っている」は半数以下となっており、認知度は低い。性別では、男性は28.9%、女性は17.7%が「知っている」と回答しており、女性より男性の方が11.2ポイント高い。

問27 その他、ご意見がございましたら、ご自由にお書きください。（自由記述）

ハザードマップ等の活用について
ゲリラ豪雨、台風発生が増加等想定外の事態が近年多発している。行政頼りでは無く我々市民が対策や対応をしていかなければならないと思います。行政からのハザードマップ等はしっかりと確認をして行きたい。(70代・男性)
防災防疫は市民個々の意識を高めることが重要だと思います。高齢者はとかく過去と比較しますが、乗り越えた過去は美化されがちです。体力も低下しています。今の自分が出来る最善を考え、行動する力を高めたいと思います。わが家の防災ハンドブックを手に取りやすいところに置き、大雨や地震のニュースが流れたら開く習慣にしています。(60代・女性)
自分の家だけでなく、避難行動要支援者の家付近もハザードマップで確認しなければと、あらためて思いました。(60代・女性)
震災は無事でしたが、台風で水害により被災しました。洪水や浸水には敏感になっています。今後は土砂・液状化ハザードマップも興味を持ちました。(60代・男性)
アンケートを答えて、いかに自分の危機管理が甘いか分かった。災害が起きてからでは遅いので、危機感を持ってマップ確認していきたい。(40代・女性)
周知について
今住んでいるところは川も山もなく浸水や土砂崩れの危険はありません。一斉に市民に注意を促すのではなく、危険地域の住民に対して周知するなど強弱をつけた広報も必要だと思います。(60代・男性)
防災無線がほとんど聞こえません。天候が悪いと全く聞こえません。私も含め高齢者などはSNSをうまく活用できないので、希望者などには他の市町村のように防災ラジオを配布してほしいです。また、通行止め情報が早めにわかれば帰宅方法にも備えられるので何か情報が欲しいです。(50代・女性)
水害関連ではスマートフォンに届くエリアメールをかなり参考にしています。その時点からどの場所が危険というマップの情報にスムーズにアクセスすることができれば、より避難の意識が上がると思いました。(40代・男性)
ウェブサイトについて
ハザードマップがウェブサイト上で開示された当初、画像の読込解像度が低かったのか地名が読めず、ハザードマップは紙で見たほうが良いと思い込んでましたが、現在は改善されていて嬉しかったです。(40代・女性)
避難場所など家族できちんと確認していきたいと思います。そのために、市ウェブサイトやマップなど活用したいと思います。(40代・女性)
防災関係について
子どもが小学校で防災について勉強して、学んだことを話してくれました。小さい頃から郡山市で災害があった時の避難場所などを勉強する事は、とても素晴らしいと思えました。(40代・女性)
これまでは、自分の住んでいる地域が豪雨や土砂災害からの危険性が少なかったため、改めて日頃の危機感が足りないと感じました。これを機に、防災について関心を高めたいと思いました。(60代・女性)
避難所について
郡山フェスタを家族の避難場所にしていましたが、改装の為閉店となるので避難場所ではなくなると思います。どこの避難場所にするのが良いか家族で考えようと思いました。(40代・女性)
その他
障がい者の個別避難計画についてケアマネージャーに相談してみようと思いました。(40代・女性)